

患 者 調 査

東 京 都 集 計 結 果 報 告

令和5年10月実施



ま え が き

この報告書は、厚生労働省が令和5年10月に実施した患者調査をもとに、東京都の受療状況を把握するために集計したものです。

患者調査は、全国の医療施設から層化無作為抽出した病院及び診療所を調査日に利用した全ての患者について、傷病名、受療の状況、入院期間、退院の事由、診療費等支払方法などを調査し、患者の実態を明らかにすることを目的としています。

この報告書が、福祉保健施策を推進するための基礎資料として、広く活用されれば幸いです。

終わりに、この報告書を作成するに当たり、御協力いただいた関係者の皆様に、厚く御礼を申し上げます。

令和8年1月

東京都保健医療局

目 次

	頁
I 調査の概要	1
II 結果の概要	
1 都民の推計患者数	7
2 都内施設の推計患者数	11
3 都民の在宅医療の状況	16
4 都民の受療率	18
5 流入－流出患者の受療割合	21
6 流入－流出の推計患者数	22
7 二次医療圏内の病院の受療割合	24
8 都民患者の入院期間	25
9 退院患者の平均在院日数・在院期間	25
III 統 計 表	
年次推移	
第1表 都民の推計患者数の年次推移、入院－外来・施設の種別	31
第2表 都民の受療率（人口10万対）の年次推移、入院－外来・施設の種別	31
第3表 都内施設の推計患者数の年次推移、入院－外来・施設の種別	31
第4表 都民の推計患者数及び受療率の年次推移、入院－外来・性・年齢階級別	33
第5表 都民の推計患者数及び受療率の年次推移、入院－外来・傷病大分類別	35
第6表 都内施設の推計患者数の年次推移、入院－外来・性・年齢階級別	37
都民の推計患者数	
第7表 都民の推計患者数・構成割合、診療費等支払方法・施設の種別・ 入院－外来別	39
第8表 都民の推計患者数・構成割合、受療の種別・施設の種別	41
第9表 都民の推計患者数、入院－外来・紹介の状況・病院（病床規模）－ 一般診療所別	43
第10表 都民の推計患者数、入院－外来・都内施設－都外施設・性・年齢階級別	45
第11表 都民の推計患者数、施設の種別・入院－外来・年齢階級・傷病大分類別	47
第12表 都民の推計患者数・構成割合、施設の種別・入院－外来・ 都内施設－都外施設・傷病大分類別	71
第13表 都民の推計患者数（65歳以上）・構成割合、施設の種別・入院－外来・ 都内施設－都外施設・傷病大分類別	79
第14表 都民の推計患者数、施設の種別・入院－外来・紹介の状況・傷病大分類別	87
第15表 都民の推計患者数、入院－外来・来院時の状況・病院－一般診療所・ 傷病大分類別	93
第16表 都民の歯科診療所の推計患者数、年齢階級・性・歯科分類別	99

第17表	都民の推計入院患者数、病院—一般診療所・入院期間・年齢階級・性別	101
第18表	都民の推計入院患者数、病院—一般診療所・入院期間・傷病大分類別	107
第19表	都民の推計入院患者数、入院の状況・入院期間・病床の種類別	113

都民の推計退院患者数

第20表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・手術の有無・退院事由・ 傷病大分類別	115
第21表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・手術の有無・退院事由・ 年齢階級・性別	121
第22表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・退院後の行き先・ 傷病大分類別	127
第23表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・退院後の行き先・ 年齢階級・性別	133
第24表	都民の推計退院患者数、手術の有無・在院期間・傷病大分類別	139
第25表	都民の推計退院患者数、病院—一般診療所・在院期間・年齢階級・性別	151

都内施設の推計患者数

第26表	都内施設の推計患者数・構成割合、診療費等支払方法・施設の種類・ 入院—外来別	163
第27表	都内施設の推計患者数・構成割合、受療の種類・施設の種類の別	165
第28表	都内施設の推計患者数、入院—外来・紹介の状況・病院（病床規模）— 一般診療所別	167
第29表	都内施設の推計患者数、入院—外来・都民—都民以外・性・年齢階級別	169
第30表	都内施設の推計患者数、施設の種類の別・入院—外来・年齢階級・ 傷病大分類別	171
第31表	都内施設の推計患者数・構成割合、施設の種類の別・入院—外来・ 都民—都民以外・傷病大分類別	195
第32表	都内施設の推計患者数、施設の種類の別・入院—外来・紹介の状況・ 傷病大分類別	203
第33表	都内施設の推計患者数、入院—外来・来院時の状況・病院—一般診療所・ 傷病大分類別	209
第34表	都内の歯科診療所の推計患者数、年齢階級・性・歯科分類別	215
第35表	都内施設の推計入院患者数、病院—一般診療所・入院期間・ 年齢階級・性別	217
第36表	都内施設の推計入院患者数、病院—一般診療所・入院期間・ 傷病大分類別	223
第37表	都内施設の推計入院患者数、入院の状況・入院期間・病床の種類別	229

都内施設の推計退院患者数

第38表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・手術の有無・退院事由・ 傷病大分類別	231
第39表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・手術の有無・退院事由・ 年齢階級・性別	237

第40表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・退院後の行き先・ 傷病大分類別	243
第41表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・退院後の行き先・ 年齢階級・性別	249
第42表	都内施設の推計退院患者数、手術の有無・在院期間・傷病大分類別	255
第43表	都内施設の推計退院患者数、病院—一般診療所・在院期間・年齢階級・ 性別	267

都民の受療率

第44表	都民の受療率（人口10万対）、入院—外来・都内施設—都外施設・性・ 年齢階級別	279
第45表	都民の受療率（人口10万対）、施設の種類・入院—外来・年齢階級・ 傷病大分類別	281

退院患者平均在院日数

第46表	都民の退院患者平均在院日数、病院—一般診療所・年齢階級・性・ 傷病大分類別	305
第47表	都内施設の退院患者平均在院日数、病院—一般診療所・年齢階級・性・ 傷病大分類別	323

医療圏別病院の推計入院患者数

第48表	病院の推計入院患者数、病床の種類（精神—結核—その他）・ 患者住所地（都内医療圏—都外）・施設所在地（都内医療圏—都外）別	341
------	--	-----

都内施設の総患者数

第49表	都内施設の総患者数、年齢階級・性・傷病大分類別	349
------	-------------------------	-----

都民の総患者数

第50表	都民の総患者数、年齢階級・性・傷病大分類別	355
------	-----------------------	-----

IV 参 考

1 全国の受療状況

第1表	全国の推計患者数及び受療率、施設の種類・受療の種類別	364
第2表	全国の推計患者数の年次推移、入院—外来・施設の種類の別	364
第3表	全国の推計患者数の年次推移、入院—外来・性・年齢階級別	365
第4表	全国の受療率（人口10万対）の年次推移、入院—外来・性・年齢階級別	367
第5—1表	全国の入院受療率（人口10万対）、年齢階級・傷病大分類別	369
第5—2表	全国の外来受療率（人口10万対）、年齢階級・傷病大分類別	371
第6表	全国の受療率（人口10万対）の年次推移、入院—外来・傷病大分類別	373
第7表	全国の受療率（人口10万対）、総数—65歳以上・入院—外来・都道府県別	375
第8表	全国の再来患者の平均診療間隔、施設の種類・傷病大分類別	376
第9表	都道府県別にみた推計流入・流出患者数の割合	377

2	用語の解説・調査票	378
---	-----------	-----

I 調査の概要

1 調査の目的

この調査は、病院及び診療所（以下「医療施設」という。）を利用する患者について、その属性、入院・来院時の状況及び傷病名等の実態を明らかにし、併せて地域別患者数を推計することにより、医療行政の基礎資料を得ることを目的とする。

2 沿革

「患者調査」は、医師の診断した傷病名に基づく傷病調査であり、昭和 28 年から実施されている厚生労働省所管の調査である。

東京都では昭和 52 年に、昭和 45、50 及び 52 年に実施された患者調査について東京都分の集計解析を行い、「昭和 52 年都民傷病調査（患者調査都分集計）報告」として公表した。

継続して都民の受療動向を把握することが衛生行政施策の上でも重要であるため、昭和 55 年から毎年都分集計報告を発行してきたが、昭和 59 年の患者調査から調査周期が 3 年ごととされたため、都分集計報告も昭和 60 年から 3 年ごとの発行となっている。

また、昭和 59 年の患者調査から、都道府県別推計が可能となるよう調査客体数が増加されるとともに、患者の住所地が把握できるよう調査事項の改正が行われた。このため、昭和 60 年の都分集計報告から、都民の他府県での受療状況も集計解析できるようになった。

なお、昭和 60 年版から表題を「患者調査東京都集計結果報告」と改めた。

3 調査の対象及び客体

(1) 調査の対象

都内で調査対象となった医療施設は、以下のとおり

病 院	入院：460 施設、外来：157 施設
一般診療所	127 施設
歯科診療所	27 施設 ※歯科診療所は、外来のみ調査

(2) 調査の客体

医療施設を利用する患者を対象として、地域別推計が可能となるよう、厚生労働省が層化無作為抽出した医療施設を利用した患者を客体とした。

＜参考：全国の標本数＞

病 院	入院：6,481 施設（抽出率 8.0/10）、外来：3,385 施設（抽出率 4.2/10）
一般診療所	5,853 施設（抽出率 6.0/100）
歯科診療所	1,268 施設（抽出率 1.9/100） ※歯科診療所は、外来のみ調査

4 調査の期日

病院については、令和 5 年 10 月 17 日（火）～19 日（木）の 3 日間のうち病院ごとに指定した 1 日とし、診療所については、令和 5 年 10 月 17 日（火）、18 日（水）、20 日（金）の 3 日間のうち診療所ごとに指定した 1 日とした。

また、退院患者については、令和 5 年 9 月 1 日～30 日までの 1 か月間とした。

5 調査事項

性別、出生年月日、患者の住所、入院年月日^(※1)、退院年月日^(※2)、主傷病名、副傷病名、診療費等支払方法、病床の種別^(※1)、紹介の状況^(※3)、退院後の行き先^(※2)等である。

※1 入院患者及び退院患者に対する調査事項

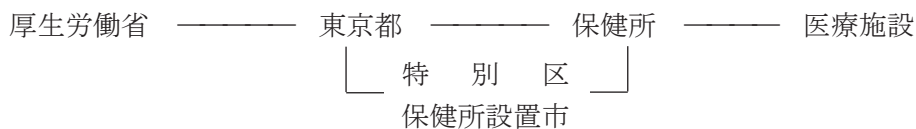
※2 退院患者に対する調査事項

※3 入院患者及び外来患者に対する調査事項

6 調査の方法

医療施設の管理者が記入する方式によった。

7 調査の系統



8 結果の集計

厚生労働省から東京都分のデータの提供を受け、施設の所在地又は患者の住所地が東京都にあるものを集計の対象として、東京都保健医療局において行った。

9 傷病分類

この調査における傷病は、世界保健機関（WHO）の「疾病及び関連保健問題の国際統計分類」（ICD）に基づいて定められた「疾病、傷害及び死因の統計分類（ICD-10（2013年版）準拠）」を適用して分類している。なお、「新型コロナウイルス感染症」は「疾病、傷害及び死因の統計分類」第XXII章（特殊目的用コード）に含まれる。

10 利用上の注意

- (1) この調査における患者数とは、調査日に医療施設で受療した患者数を推計したものである。

したがって、1年間の受療状況を推計したものではなく、また、その傷病を有する全ての患者数を推計したものでもない。さらに、この調査はいわゆる1日調査であるため、調査日の天候等の影響を受けやすく、年次比較の際は注意が必要である。

- (2) 掲載数値で、「都民」とあるのは、都民の受療状況を把握したものであり、都外の医療施設で受療した都民を含む。

また、「都内施設」とあるのは、都内の医療施設での受療状況を把握したものであり、都民以外の受療患者を含む。

- (3) 受療率の算出に用いた年齢階級別人口は、「東京都の人口（推計）令和5年10月1日現在」（東京都総務局）を基礎に東京都保健医療局で推計した。

厚生労働省の患者調査報告書では、「人口推計（2023年（令和5年）10月1日現在）」（総務省統計局）の総人口を用いているが、都の集計で使用する年齢区分（0歳、1～4歳）の数値がないため、東京都で推計した数値を用いて算出している。このため、都と国とで

は、数値が異なることがある。

(4) 表章記号の規約

計数のない場合	—
統計項目のありえない場合	・
数値微小の場合	0 又は 0.0
計数不明又は計数を表章することが不適当な場合	…

(5) 掲載の数値は、単位未満を四捨五入しているため、内訳の合計が総数に合わない場合もある。

(6) 受療率及び構成割合は、各表の端数処理前の集計数値により計算し、単位未満を四捨五入している。

(7) 総患者数の推計には推計患者数、平均診療間隔及び調整係数を用いている。このうち、平均診療間隔は、診療間隔が極端に長い場合は継続的に医療を受けているとせず、再来ではなく初診とみなす方が適当であるとの考え方により、推計の対象となる「前回診療日から調査日までの日数」に算出上限を設け算出している。

近年の疾病構造の変化や医療技術の向上などにより診療状況に変化が生じていることを踏まえて、厚生労働省が「患者調査における「平均診療間隔」及び「総患者数」の算出方法等の見直しに関するワーキンググループ」において検討し、平成29年調査まで算出上限日数を30日（31日以上は除外する）と設定していたものについて、令和2年調査以降は、算出の上限日数を98日（99日以上は除外する）にする見直しを行った。

詳細はこちら

<https://www.mhlw.go.jp/toukei/list/10-20-oshirase-2022-1.html>

別表 1

傷 病 分 類 表

傷 病 大 分 類	基本分類コード（第10回修正ICD）
I 感染症及び寄生虫症 腸管感染症 結核 皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患 真菌症 その他の感染症及び寄生虫症	A00-B99 A00-A09 A15-A19 B00-B09 B35-B49 A00-B99の残り
II 新生物＜腫瘍＞ (悪性新生物＜腫瘍＞)(再掲) 胃の悪性新生物＜腫瘍＞ 結腸及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞ 気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞ その他の悪性新生物＜腫瘍＞ 良性新生物＜腫瘍＞及びその他の新生物＜腫瘍＞	C00-D48 (C00-C97) C16 C18-C20 C33-C34 C00-C15,C17,C21-C32,C37-C97 D00-D48
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害 貧血 その他の血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	D50-D89 D50-D64 D65-D89
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患 甲状腺障害 糖尿病 脂質異常症 その他の内分泌、栄養及び代謝疾患	E00-E90 E00-E07 E10-E14 E78 E15-E77,E79-E90
V 精神及び行動の障害 統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害 気分[感情]障害(躁うつ病を含む) 神経症性障害、ストレス関連障害及び身体表現性障害 その他の精神及び行動の障害	F00-F99 F20-F29 F30-F39 F40-F48 F00-F19,F50-F99
VI 神経系の疾患	G00-G99
VII 眼及び付属器の疾患 白内障 その他の眼及び付属器の疾患	H00-H59 H25-H26 H00-H22,H27-H59
VIII 耳及び乳様突起の疾患 外耳疾患 中耳炎 その他の中耳及び乳様突起の疾患 内耳疾患 その他の耳疾患	H60-H95 H60-H62 H65-H67 H68-H75 H80-H83 H90-H95
IX 循環器系の疾患 高血圧性疾患 (心疾患(高血圧性のものを除く))(再掲) 虚血性心疾患 その他の心疾患 (脳血管疾患)(再掲) 脳梗塞 その他の脳血管疾患 その他の循環器系の疾患	I00-I99 I10-I15 (I01-I02.0,I05-I09,I20-I25,I27,I30-I52) I20-I25 I01-I02.0,I05-I09,I27,I30-I52 (I60-I69) I63,I69.3 I60-I62,I64-I68,I69.0-I69.2,I69.4-I69.8 I00,I02.9,I26,I28,I70-I99

傷 病 大 分 類		基本分類コード（第10回修正ICD）
X	呼吸器系の疾患 急性上気道感染症 肺炎 急性気管支炎及び急性細気管支炎 気管支炎及び慢性閉塞性肺疾患 喘息 その他の呼吸器系の疾患	J00-J99 J00-J06 J12-J18 J20-J21 J40-J44 J45-J46 J00-J99の残り
X I	消化器系の疾患 う蝕 歯肉炎及び歯周疾患 その他の歯及び歯の支持組織の障害 胃潰瘍及び十二指腸潰瘍 胃炎及び十二指腸炎 肝疾患 その他の消化器系の疾患	K00-K93 K02 K05 K00-K01,K03-K04,K06-K08 K25-K27 K29 K70-K77 K00-K93の残り
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	L00-L99
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患 炎症性多発性関節障害 脊柱障害 骨の密度及び構造の障害 その他の筋骨格系及び結合組織の疾患	M00-M99 M05-M14 M40-M54 M80-M85 M00-M99の残り
X IV	腎尿路生殖器系の疾患 糸球体疾患、腎尿細管間質性疾患及び腎不全 乳房及び女性生殖器の疾患 その他の腎尿路生殖器系の疾患	N00-N99 N00-N19 N60-N98,N99.2-N99.3 N00-N99の残り
X V	妊娠、分娩及び産じょく 流産 妊娠高血圧症候群 単胎自然分娩 その他の妊娠、分娩及び産じょく	O00-O99 O00-O08 O10-O16 O80 O20-O75,O81-O99
X VI	周産期に発生した病態	P00-P96
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常	Q00-Q99
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	R00-R99
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響 骨折 その他の損傷、中毒及びその他の外因の影響	S00-T98 S02,S12,S22,S32,S42,S52,S62,S72,S82, S92,T02,T08,T10,T12,T14.2 S00-T98の残り
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用 正常妊娠・産じょくの管理並びに家族計画 歯の補てつ その他の保健サービス	Z00-Z99 Z30-Z39 Z46.3 Z00-Z99の残り
X X II	特殊目的用コード 重症急性呼吸器症候群[SARS] その他の特殊目的用コード	U00-U99 U04 U00-U99の残り

注： 傷病大分類については、平成29年から「疾病、傷害及び死因の統計分類(ICD-10(2013年版)準拠)」を適用しており、「脂質異常症」と「その他の内分泌、栄養及び代謝疾患」を分けて表章している。

別表 2

受療率算出に使用した東京都の人口

年 齢 階 級	令和 5 年10月 1 日現在		
	総 数	男	女
総 数	14, 099, 993	6, 915, 965	7, 184, 028
0 歳	89, 649	45, 849	43, 805
1 ～ 4 歳	391, 965	200, 516	189, 764
5 ～ 9 歳	551, 324	281, 446	269, 884
10 ～ 14 歳	551, 411	282, 477	268, 923
15 ～ 19 歳	551, 414	280, 711	270, 688
20 ～ 24 歳	750, 712	373, 432	377, 282
25 ～ 29 歳	958, 424	479, 066	479, 408
30 ～ 34 歳	898, 022	454, 230	443, 816
35 ～ 39 歳	944, 155	479, 515	464, 613
40 ～ 44 歳	1, 007, 411	514, 336	493, 045
45 ～ 49 歳	1, 123, 915	571, 357	552, 492
50 ～ 54 歳	1, 183, 740	598, 807	584, 835
55 ～ 59 歳	1, 006, 462	518, 720	487, 677
60 ～ 64 歳	792, 390	404, 897	387, 509
65 ～ 69 歳	667, 356	332, 082	335, 258
70 ～ 74 歳	762, 792	364, 095	398, 716
75 ～ 79 歳	689, 966	308, 087	381, 942
80 ～ 84 歳	562, 757	228, 097	334, 753
85 歳 以 上	616, 073	198, 245	417, 938
不 詳	-	-	-
(再 掲)			
65 歳 以 上	3, 298, 944	1, 430, 606	1, 868, 607
70 歳 以 上	2, 631, 588	1, 098, 523	1, 533, 349
75 歳 以 上	1, 868, 796	734, 429	1, 134, 633

- (1) 総数は、東京都総務局統計部公表の「東京都の人口（推計）」（令和 5 年10月 1 日現在）による。
- (2) 年齢階級別の人口は、「東京都の人口（推計）」を基礎に東京都保健医療局総務部総務課で推計した。
- なお、推計値のため、個々の数字の合計は必ずしも総数とは一致しない。

Ⅱ 結果の概要

1 都民の推計患者数

調査日に医療施設で受療した都民の推計患者数は、「入院」94.6千人、「外来」784.5千人である。

(1) 施設の種類・性・年齢階級別推計患者数（表1、図1）

「入院」94.6千人について施設の種類の別みると、「病院」92.8千人（入院患者の98.1%）、「一般診療所」1.8千人（同1.9%）となっている。全国と比較すると、都民の方が病院利用者の割合が高い。性別にみると、「男」43.6千人（同46.1%）、「女」50.9千人（同53.8%）、年齢階級別にみると、「65歳以上」68.2千人（同72.1%）、「75歳以上」52.8千人（同55.8%）となっている。

「外来」784.5千人について施設の種類の別みると、「病院」140.4千人（外来患者の17.9%）、「一般診療所」534.1千人（同68.1%）、「歯科診療所」110.1千人（同14.0%）となっている。性別にみると、「男」322.4千人（同41.1%）、「女」462.1千人（同58.9%）、年齢階級別にみると、「65歳以上」351.0千人（同44.7%）、「75歳以上」218.5千人（同27.9%）となっている。

表1 施設の種類・年齢階級別にみた都民の推計患者数

（単位：千人）

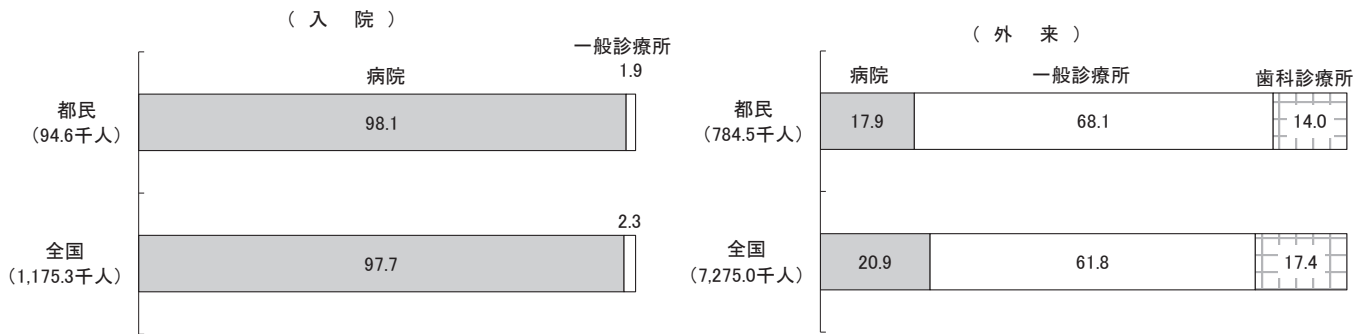
令和5年10月

性 年齢階級	入 院			外 来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総 数	94.6 (93.9)	92.8 (92.3)	1.8 (1.6)	784.5 (811.3)	140.4 (131.5)	534.1 (531.2)	110.1 (148.6)
男	43.6	42.9	0.7	322.4	64.6	214.9	42.9
女	50.9	49.9	1.1	462.1	75.8	319.1	67.2
0 歳	1.2	1.2	0.1	5.4	1.7	3.7	-
1 ～ 4 歳	0.5	0.5	-	25.4	3.4	21.7	0.3
5 ～ 9 歳	0.4	0.4	-	24.9	2.9	21.1	0.8
10 ～ 14 歳	0.5	0.5	-	21.1	2.3	17.3	1.6
15 ～ 19 歳	0.6	0.6	-	12.9	1.6	9.7	1.6
20 ～ 24 歳	0.7	0.7	-	20.9	2.2	16.2	2.4
25 ～ 29 歳	1.1	1.1	-	28.3	3.2	22.3	2.7
30 ～ 34 歳	1.6	1.5	0.1	32.4	4.1	22.9	5.4
35 ～ 39 歳	1.7	1.7	-	29.8	5.4	21.6	2.8
40 ～ 44 歳	1.8	1.7	-	29.6	5.8	20.5	3.3
45 ～ 49 歳	2.4	2.4	-	42.9	6.9	30.4	5.6
50 ～ 54 歳	3.8	3.8	-	54.1	9.2	33.7	11.3
55 ～ 59 歳	4.6	4.5	0.1	49.6	9.3	33.9	6.4
60 ～ 64 歳	5.3	5.3	-	55.1	10.2	33.9	11.0
65 ～ 69 歳	6.1	6.0	0.1	59.8	11.5	37.6	10.8
70 ～ 74 歳	9.3	9.2	0.1	72.6	15.7	47.4	9.5
75 ～ 79 歳	12.0	11.7	0.3	72.5	16.7	47.3	8.6
80 ～ 84 歳	13.7	13.6	0.1	69.3	15.2	45.7	8.4
85 歳 以 上	27.1	26.4	0.7	76.7	13.3	45.9	17.5
不 詳	0.1	0.1	-	1.2	-	1.2	-
（ 再 掲 ）							
65 歳 以 上	68.2	66.8	1.4	351.0	72.2	223.9	54.8
70 歳 以 上	62.1	60.9	1.2	291.1	60.8	186.3	44.1
75 歳 以 上	52.8	51.7	1.1	218.5	45.1	138.9	34.5

注1 歯科診療所は外来のみである。

2 （ ）は令和2年の数値である。

図1 施設の種類の別みた都民と全国の推計患者数の構成割合



注:()内は推計患者数である。

(2) 推計患者数の年次推移 (図2、図3)

年次推移をみると、入院では、前回の調査と比較すると「病院」「一般診療所」は微増している。外来では、前回の調査と比較すると、「歯科診療所」は減少、「病院」「一般診療所」は増加している。

年齢階級別にみると、入院では「35～64 歳」が減少傾向となっており、外来では総じて横ばいとなっている。

図2 施設の種類の別みた都民の推計患者数の年次推移

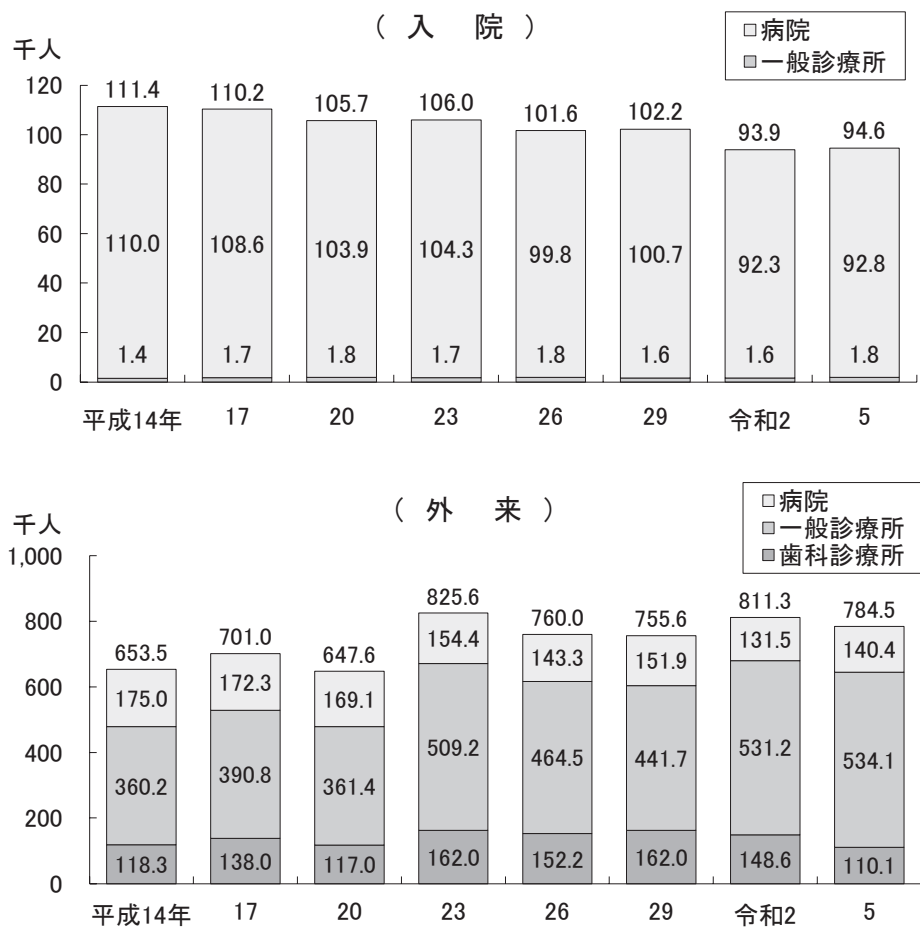
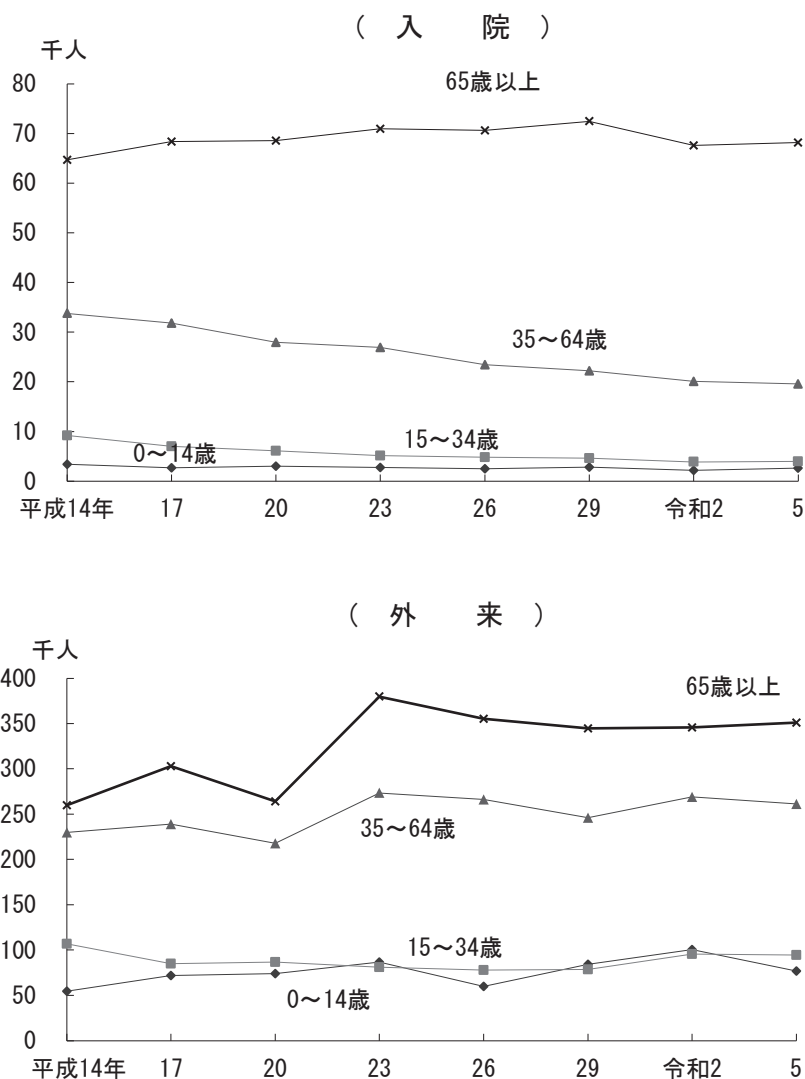


図3 年齢階級別にみた都民の推計患者数の年次推移



(3) 傷病分類別推計患者数 (表2、図4)

都民の入院患者を傷病分類別にみると、「V 精神及び行動の障害」15.5千人(入院患者の16.4%)、「IX 循環器系の疾患」15.2千人(同16.1%)、「XIX 損傷、中毒及びその他の外因の影響」10.5千人(同11.1%)の順となっている。

入院患者で最も多い「V 精神及び行動の障害」では「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が多く、9.0千人(同9.5%)となっている。「IX 循環器系の疾患」では「脳血管疾患」が多く、9.4千人(同9.9%)となっている。

全国と比較すると、都民では「V 精神及び行動の障害」の割合が低く、「IX 循環器系の疾患」の割合が高くなっている。

都民の外来患者を傷病分類別にみると、「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」126.0千人(外来患者の16.1%)、「XI 消化器系の疾患」116.0千人(同14.8%)、「X 呼吸器系の疾患」90.8千人(同11.6%)の順となっている。

全国と比較すると、都民では「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」の割合が高く、「XI 消化器系の疾患」の割合が低くなっている。

表２ 施設の種類・傷病分類別にみた都民の推計患者数

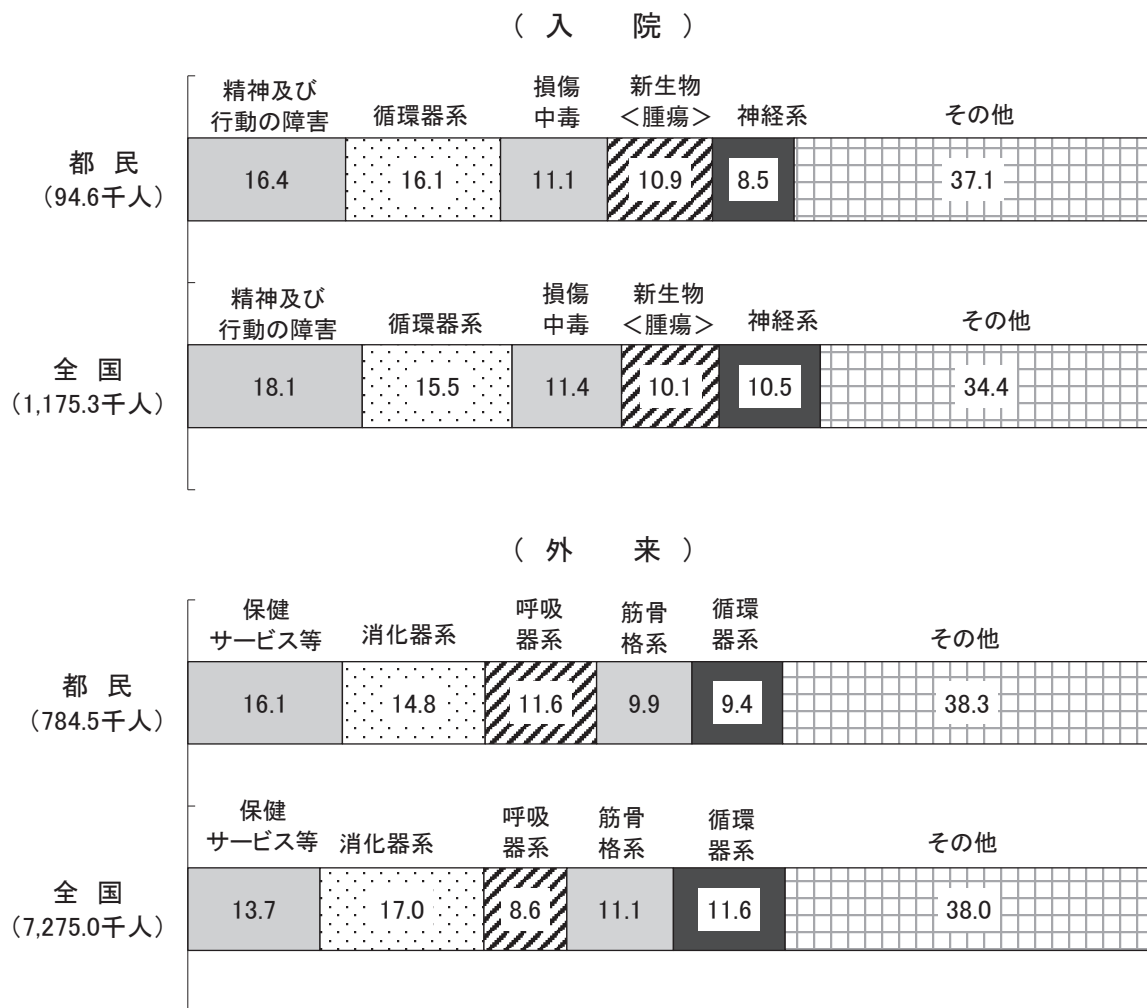
(単位:千人)

令和5年10月

傷病分類	入院			外来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総数	94.6	92.8	1.8	784.5	140.4	534.1	110.1
I 感染症及び寄生虫症	1.4	1.4	-	20.4	3.0	17.4	-
結核	0.2	0.2	-	0.1	0.1	-	-
皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	0.1	0.1	-	8.9	0.5	8.5	-
II 新生物<腫瘍>	10.3	10.2	0.1	26.9	18.0	8.9	-
悪性新生物<腫瘍>	9.0	8.9	-	16.4	13.7	2.7	-
胃の悪性新生物<腫瘍>	0.6	0.6	-	1.0	0.9	0.1	-
結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	1.3	1.3	-	2.4	2.0	0.4	-
気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	1.1	1.1	-	1.3	1.2	0.1	-
III 血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	0.5	0.5	-	2.3	1.2	1.2	-
IV 内分泌、栄養及び代謝疾患	2.3	2.2	0.1	47.3	9.4	37.9	-
糖尿病	0.9	0.8	-	21.7	5.0	16.7	-
V 精神及び行動の障害	15.5	15.4	-	22.9	8.5	14.4	-
統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	9.0	9.0	-	4.6	2.6	2.0	-
VI 神経系の疾患	8.0	7.9	0.1	14.9	4.8	10.2	-
VII 眼及び付属器の疾患	0.9	0.9	-	32.7	4.9	27.9	-
VIII 耳及び乳様突起の疾患	0.1	0.1	-	12.9	1.2	11.7	-
IX 循環器系の疾患	15.2	14.5	0.6	73.4	15.5	57.9	-
高血圧性疾患	0.4	0.1	0.3	51.3	6.8	44.5	-
心疾患(高血圧性のものを除く)	4.3	4.2	0.1	13.4	5.1	8.3	-
脳血管疾患	9.4	9.1	0.3	6.9	2.4	4.5	-
脳梗塞	5.5	5.4	0.2	4.2	1.2	3.1	-
X 呼吸器系の疾患	6.4	6.4	-	90.8	7.2	83.6	-
喘息	0.2	0.2	-	19.2	1.6	17.7	-
X I 消化器系の疾患	5.2	5.2	-	116.0	12.4	16.7	86.8
う蝕	-	-	-	18.7	0.5	0.1	18.2
歯肉炎及び歯周疾患	-	-	-	50.9	1.0	-	49.9
その他の歯及び歯の支持組織の障害	0.1	0.1	-	17.9	1.3	0.6	16.1
胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	0.2	0.2	-	1.3	0.6	0.7	-
胃炎及び十二指腸炎	-	-	-	8.8	1.4	7.4	-
肝疾患	0.4	0.4	-	2.2	1.1	1.0	-
X II 皮膚及び皮下組織の疾患	0.9	0.9	-	40.3	4.0	36.3	-
X III 筋骨格系及び結合組織の疾患	6.8	6.3	0.5	77.5	12.3	65.2	-
X IV 腎尿路生殖器系の疾患	4.4	4.4	-	33.8	10.7	23.1	-
X V 妊娠、分娩及び産じょく	1.4	1.3	0.1	1.5	0.8	0.7	-
X VI 周産期に発生した病態	0.9	0.8	-	0.4	0.4	-	-
X VII 先天奇形、変形及び染色体異常	0.5	0.5	-	2.3	1.3	1.0	-
X VIII 症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	1.1	1.0	-	11.4	4.6	6.8	-
X IX 損傷、中毒及びその他の外因の影響	10.5	10.4	-	27.1	7.0	20.2	-
X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	0.8	0.8	-	126.0	12.4	90.4	23.2
歯の補てつ	-	-	-	18.4	-	-	18.4
X X II 特殊目的用コード	1.6	1.6	-	3.6	0.9	2.7	-

注 歯科診療所は外来のみである。

図4 傷病分類別にみた都民と全国の推計患者数の構成割合



注:()内は推計患者数である。

2 都内施設の推計患者数

調査日に都内の医療施設で受療した推計患者数は、「入院」97.2千人、「外来」895.4千人である。

(1) 施設の種類・性・年齢階級別推計患者数（表3、図5、図6）

「入院」97.2千人について施設の種類の別みると、「病院」95.7千人（入院患者の98.5%）、「一般診療所」1.6千人（同1.6%）となっている。全国と比較すると、都内施設の方が病院利用者の割合が高い。

性別にみると、「男」45.4千人（同46.7%）、「女」51.8千人（同53.3%）、年齢階級別にみると、「65歳以上」69.1千人（同71.1%）、「75歳以上」52.8千人（同54.3%）となっている。年齢階級別に全国と比較すると、都内施設では「0～14歳」「15～34歳」「35～64歳」の割合が高く、「65歳以上」の割合が低くなっている。

「外来」895.4千人について施設の種別別にみると、「病院」154.6千人(外来患者の17.3%)、「一般診療所」563.9千人(同63.0%)、「歯科診療所」176.8千人(同19.7%)となっている。年齢階級別に全国と比較すると、都内施設の方が病院利用者の割合が低い。

性別にみると、「男」361.2千人(同40.3%)、「女」534.1千人(同59.7%)、年齢階級別にみると、「65歳以上」423.3千人(同47.3%)、「75歳以上」278.5千人(同31.1%)となっている。年齢階級別に全国と比較すると、都内施設では「15～34歳」「35～64歳」の割合が高く、「0～14歳」「65歳以上」の割合が低くなっている。

表3 施設の種類・年齢階級別にみた都内施設の推計患者数

(単位:千人)

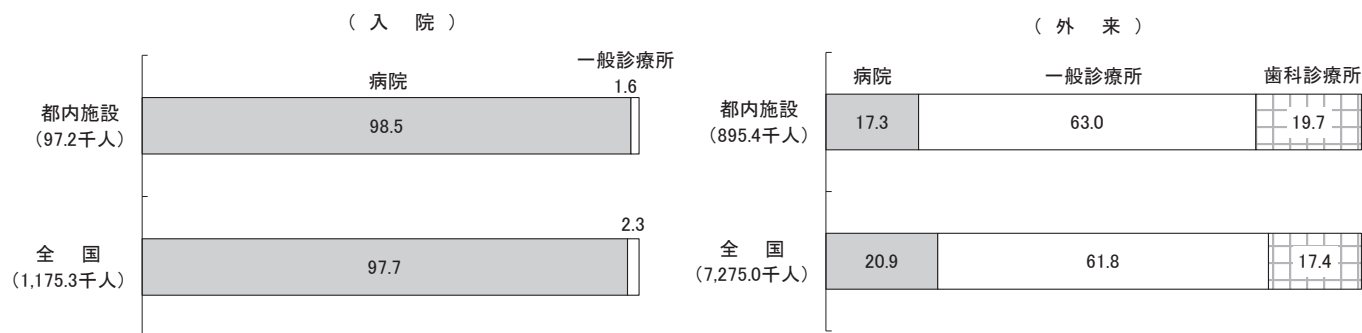
令和5年10月

性 年齢階級	入 院			外 来			
	総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総 数	97.2 (95.7)	95.7 (93.9)	1.6 (1.8)	895.4 (858.9)	154.6 (144.5)	563.9 (553.4)	176.8 (161.0)
男	45.4	44.8	0.6	361.2	72.3	228.3	60.6
女	51.8	50.8	0.9	534.1	82.3	335.6	116.1
0 歳	1.1	1.1	－	5.4	1.7	3.6	－
1 ～ 4 歳	0.6	0.6	－	26.0	3.6	22.1	0.3
5 ～ 9 歳	0.4	0.4	－	25.0	3.1	21.2	0.8
10 ～ 14 歳	0.5	0.5	－	21.4	2.5	17.3	1.6
15 ～ 19 歳	0.7	0.7	－	13.9	1.7	10.5	1.6
20 ～ 24 歳	0.8	0.8	－	23.5	2.6	18.2	2.7
25 ～ 29 歳	1.2	1.2	－	32.3	3.6	24.9	3.8
30 ～ 34 歳	1.6	1.6	－	35.6	4.4	25.3	5.9
35 ～ 39 歳	1.8	1.8	－	31.7	5.8	23.2	2.7
40 ～ 44 歳	1.9	1.9	－	33.2	6.5	22.9	3.8
45 ～ 49 歳	2.7	2.7	－	47.9	7.9	33.6	6.4
50 ～ 54 歳	4.2	4.2	－	60.9	10.3	38.6	12.1
55 ～ 59 歳	4.9	4.8	0.1	54.6	10.7	37.4	6.4
60 ～ 64 歳	5.6	5.6	－	59.2	11.6	35.6	12.1
65 ～ 69 歳	6.4	6.3	0.1	64.3	13.1	38.9	12.3
70 ～ 74 歳	9.9	9.8	0.1	80.5	17.4	49.9	13.1
75 ～ 79 歳	12.6	12.2	0.3	83.3	18.2	49.3	15.8
80 ～ 84 歳	13.8	13.7	0.1	79.2	16.1	46.0	17.2
85 歳 以 上	26.4	25.8	0.7	116.0	13.7	44.1	58.2
不 詳	0.1	0.1	－	1.2	0.1	1.1	－
(再 掲)							
65 歳 以 上	69.1	67.7	1.4	423.3	78.4	228.2	116.7
70 歳 以 上	62.8	61.5	1.3	359.0	65.4	189.3	104.3
75 歳 以 上	52.8	51.7	1.1	278.5	47.9	139.4	91.2

注1 歯科診療所は外来のみである。

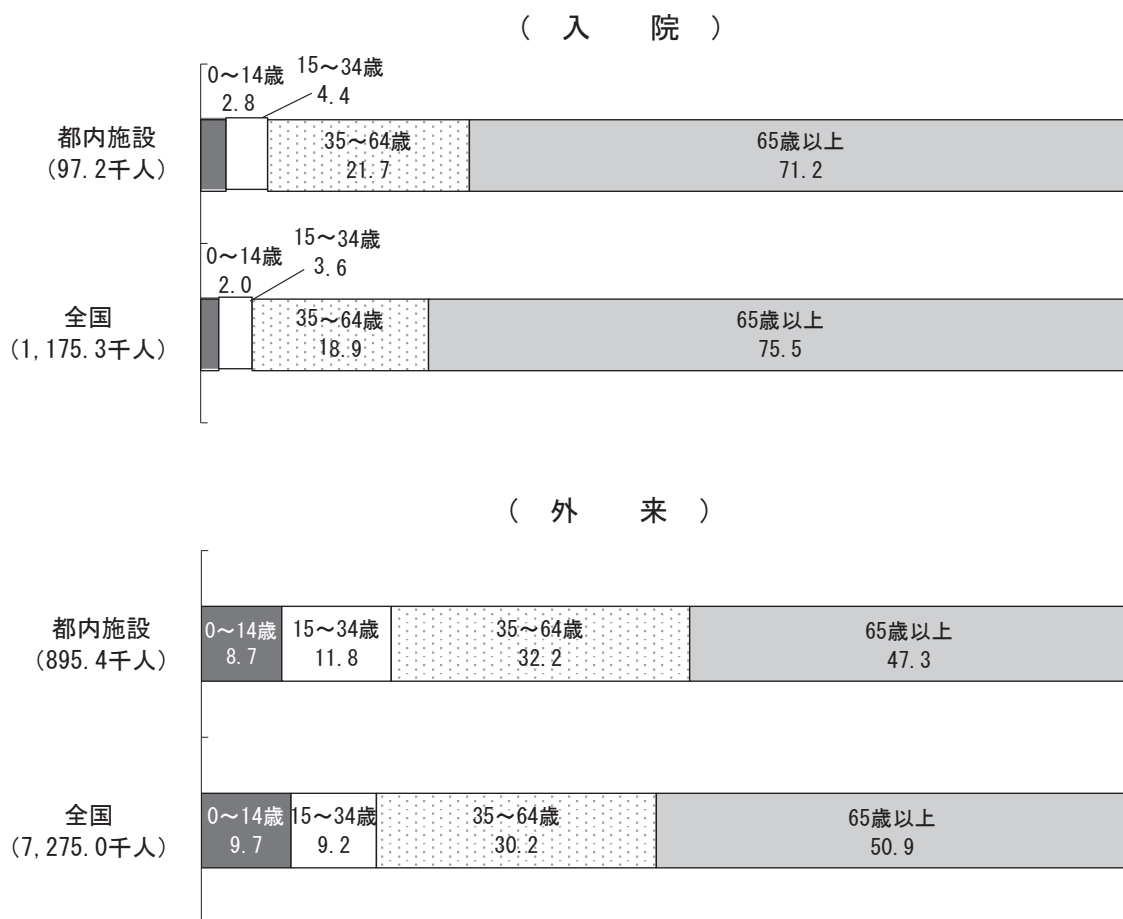
2 ()は令和2年の数値である。

図5 施設の種別別にみた都内施設と全国の推計患者数の構成割合



注:()内は推計患者数である。

図6 年齢階級別にみた都内施設の推計患者数の構成割合

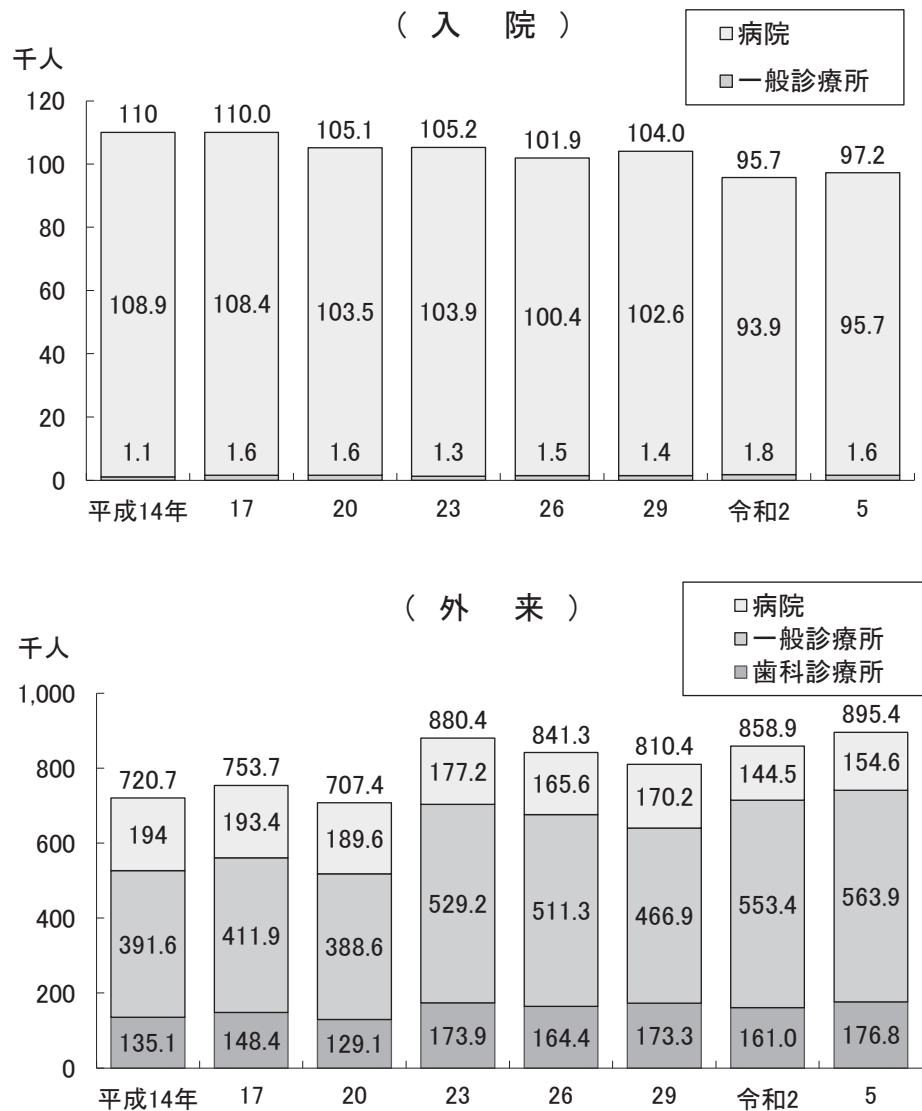


注:()内は推計患者数である。

(2) 推計患者数の年次推移 (図7)

年次推移をみると、入院では、前回の調査と比較すると、「病院」は増加、「一般診療所」は減少した。外来では、前回の調査と比較すると、「病院」「一般診療所」「歯科診療所」とも全て増加した。

図7 施設の種別別にみた都内施設の推計患者数の年次推移



(3) 傷病分類別推計患者数 (表4、図8)

都内施設の入院患者を傷病分類別にみると、「IX 循環器系の疾患」15.6千人（入院患者の16.0%）、「V 精神及び行動の障害」15.3千人（同15.7%）、「II 新生物＜腫瘍＞」12.0千人（同12.3%）の順となっている。

「IX 循環器系の疾患」では「脳血管疾患」が多く、9.4千人（同9.7%）となっている。

「V 精神及び行動の障害」では「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」が多く、8.8千人（同9.1%）となっている。

全国と比較すると、都内施設では「IX 循環器系の疾患」の割合が高く、「V 精神及び行動の障害」の割合が低くなっている。

都内施設の外来患者を傷病分類別にみると、「XI 消化器系の疾患」178.4千人（外来患者の19.9%）、「XXI 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」139.4千人（同15.6%）、「X 呼吸器系の疾患」95.3千人（同10.6%）の順となっている。

「XI 消化器系の疾患」では「歯肉炎及び歯周疾患」が多く、104.5千人（同11.7%）と

なっている。

全国と比較すると、都内施設では「X I 消化器系の疾患」「X X I 健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」の割合が高く、全国では「X III 筋骨格系及び結合組織の疾患」の割合が「呼吸器の疾患」より高い。

表 4 施設の種類・傷病分類別にみた都内施設の推計患者数

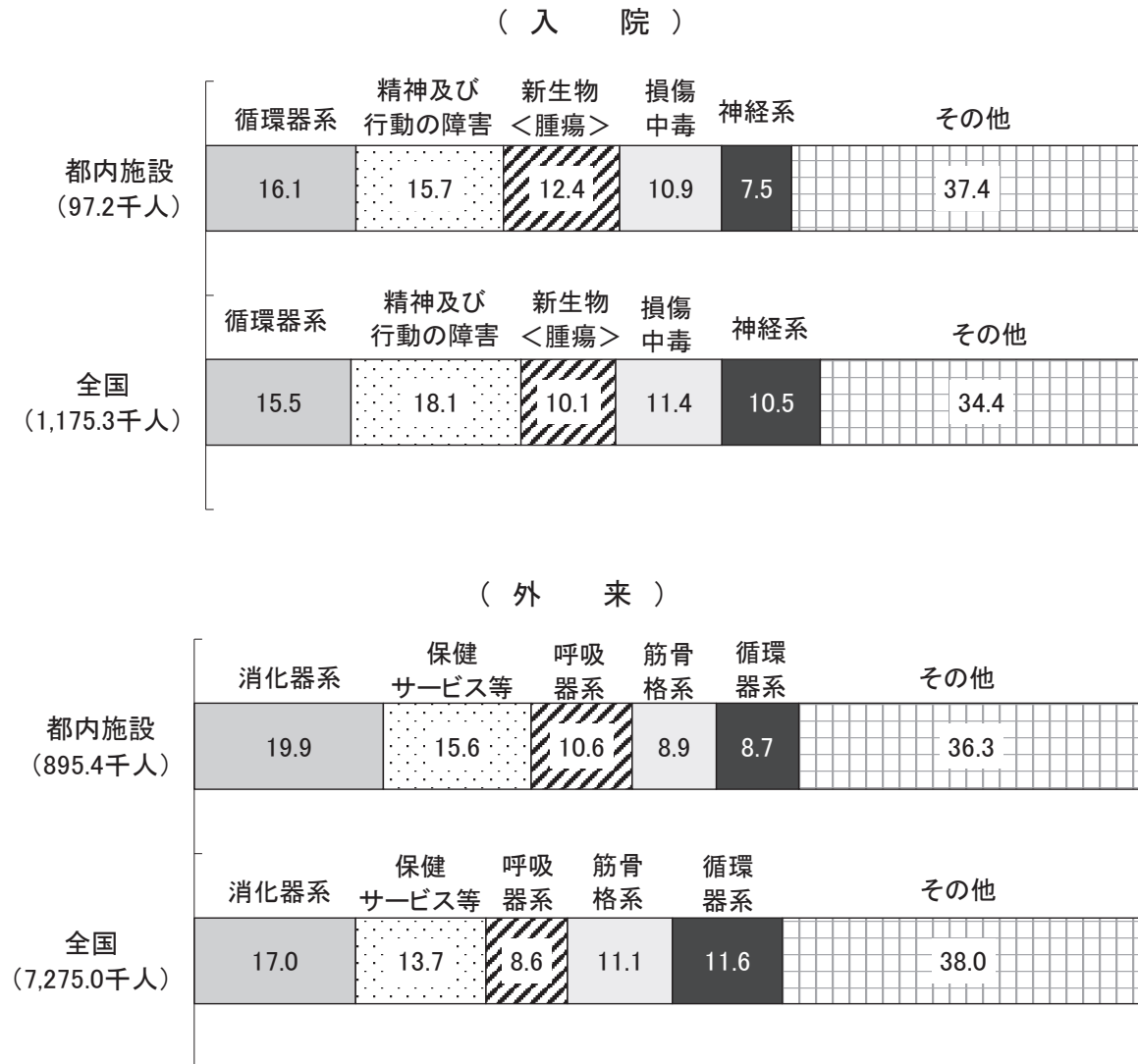
(単位:千人)

令和5年10月

傷病分類				入院			外来			
				総数	病院	一般診療所	総数	病院	一般診療所	歯科診療所
総		数		97.2	95.7	1.6	895.4	154.6	563.9	176.8
I	感染症及び寄生虫症			1.6	1.6	-	21.2	3.4	17.8	-
	結核			0.2	0.2	-	0.1	0.1	-	-
	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患			0.1	0.1	-	9.3	0.5	8.8	-
II	新生物＜腫瘍＞			12.0	12.0	0.1	31.6	21.4	10.2	-
	悪性新生物＜腫瘍＞			10.5	10.5	-	19.1	16.4	2.7	-
	胃の悪性新生物＜腫瘍＞			0.7	0.7	-	1.3	1.2	0.1	-
	結腸及び直腸の悪性新生物＜腫瘍＞			1.4	1.4	-	2.7	2.3	0.4	-
	気管、気管支及び肺の悪性新生物＜腫瘍＞			1.2	1.2	-	1.5	1.4	0.1	-
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害			0.5	0.5	-	2.9	1.4	1.5	-
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患			2.3	2.2	0.1	49.5	10.3	39.2	-
	糖尿病			0.9	0.8	-	22.1	5.4	16.7	-
V	精神及び行動の障害			15.3	15.3	-	24.1	9.4	14.7	-
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害			8.8	8.8	-	4.8	2.9	2.0	-
VI	神経系の疾患			7.3	7.2	0.1	15.5	5.3	10.1	-
VII	眼及び付属器の疾患			1.1	1.1	-	35.4	5.8	29.6	-
VIII	耳及び乳様突起の疾患			0.1	0.1	-	14.0	1.4	12.6	-
IX	循環器系の疾患			15.6	15.0	0.6	77.6	16.8	60.9	-
	高血圧性疾患			0.4	0.1	0.3	54.5	7.3	47.2	-
	心疾患（高血圧性のものを除く）			4.6	4.5	0.1	14.3	5.7	8.7	-
	脳血管疾患			9.4	9.2	0.2	6.7	2.4	4.3	-
	脳梗塞			5.5	5.4	0.2	4.1	1.2	2.9	-
X	呼吸器系の疾患			6.5	6.4	-	95.3	7.7	87.6	-
	喘息			0.3	0.2	-	20.4	1.7	18.7	-
X I	消化器系の疾患			5.4	5.4	-	178.4	14.0	17.9	146.5
	う蝕			-	-	-	20.0	0.6	0.1	19.3
	歯肉炎及び歯周疾患			0.1	0.1	-	104.5	1.1	0.1	103.3
	その他の歯及び歯の支持組織の障害			0.1	0.1	-	18.8	1.5	0.4	16.9
	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍			0.2	0.2	-	1.4	0.7	0.7	-
	胃炎及び十二指腸炎			-	-	-	9.6	1.5	8.1	-
	肝疾患			0.4	0.4	-	2.4	1.3	1.1	-
X II	皮膚及び皮下組織の疾患			0.9	0.9	-	44.2	4.3	39.9	-
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患			7.2	6.7	0.5	79.4	13.6	65.8	-
X IV	腎尿路生殖器系の疾患			4.6	4.6	-	38.4	11.3	27.1	-
X V	妊娠、分娩及び産じょく			1.2	1.2	-	1.5	0.8	0.7	-
X VI	周産期に発生した病態			0.8	0.8	-	0.4	0.4	-	-
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常			0.6	0.6	-	2.8	1.5	1.4	-
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの			1.1	1.1	-	12.5	4.9	7.6	-
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響			10.6	10.5	-	27.4	7.2	20.2	-
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用			0.8	0.8	-	139.4	12.9	96.1	30.3
	歯の補てつ			-	-	-	23.3	-	-	23.3
X X II	特殊目的用コード			1.7	1.7	-	3.8	0.9	2.9	-

注 歯科診療所は外来のみである。

図8 傷病分類別にみた都内施設と全国の推計患者数の構成割合



注:()内は推計患者数である。

3 都民の在宅医療の状況（表5、図9）

調査日に在宅医療を受けた都民の推計外来患者数は、34.3千人である。

施設の種別別にみると、「病院」1.5千人（在宅医療を受けた外来患者の4.4%）、「一般診療所」13.6千人（同39.7%）となっている。

在宅医療の種別別にみると、「往診」3.3千人（同9.7%）、「訪問診療」28.1千人（同81.9%）、「医師・歯科医師以外の訪問」3.0千人（同8.7%）となっている。

表5 施設の種類・在宅医療の種類別にみた都民の在宅医療を受けた推計外来患者数

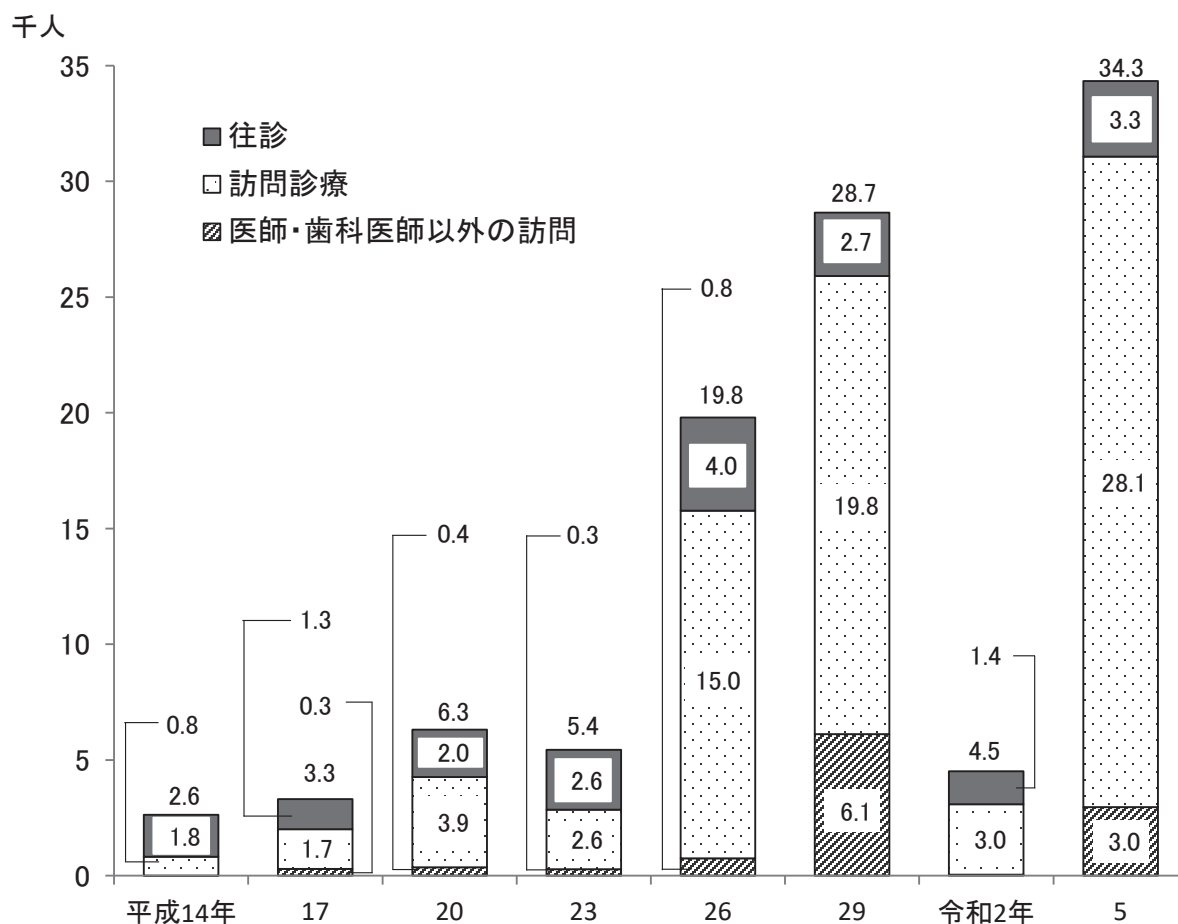
(単位:千人)

令和5年10月

推計外来 患者数 総	総 数				病 院				一般診療所				歯科診療所		
	在宅 医療	往診	訪問 診療	医師・歯科 医師以外 の 訪 問	在宅 医療	往診	訪問 診療	医師・歯科 医師以外 の 訪 問	在宅 医療	往診	訪問 診療	医師 以外 の 訪 問	在宅 医療	訪問 診療	歯科 医 師 以 外 の 訪 問
784.5	34.3	3.3	28.1	3.0	1.5	0.9	0.6	0.0	13.6	2.4	11.2	-	19.2	16.2	3.0

- 注1 「往診」とは、患家(介護老人保健施設等を含む。以下同じ。)の求めにより必要に応じて患家に赴いて診療するものをいう。
 注2 「訪問診療」とは、医科においては、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に医師が訪問して診療を行うものをいい、歯科においては、歯科医師が患家に赴いて診療を行うものをいう。
 注3 「医師・歯科医師以外の訪問」、「医師以外の訪問」及び「歯科医師以外の訪問」とは、居宅において療養を行っている患者であって、通院が困難な者に対して、その同意を得て計画的な医学管理の下に、定期的に当該職種以外の者が訪問して実施されるものをいう。

図9 都民の在宅医療を受けた推計外来患者数の年次推移



4 都民の受療率

調査日に受療した都民の受療率（人口10万人に対する推計患者数）は、「入院」671、「外来」5,564である。

(1) 性・年齢階級別受療率（表6、図10）

「入院」671について性別にみると、「男」631、「女」709、年齢階級別にみると、「5～9歳」で76と最も低く、「85歳以上」で4,395と最も高くなっている。全国と比較すると、「0歳」を除き、全ての年齢階級で全国を下回っている。

「外来」5,564について性別にみると、「男」4,662、「女」6,432、年齢階級別にみると、「15～19歳」で2,342と最も低く、「85歳以上」で12,443と最も高くなっている。

表6 性・年齢階級別にみた都民の受療率（人口10万対）

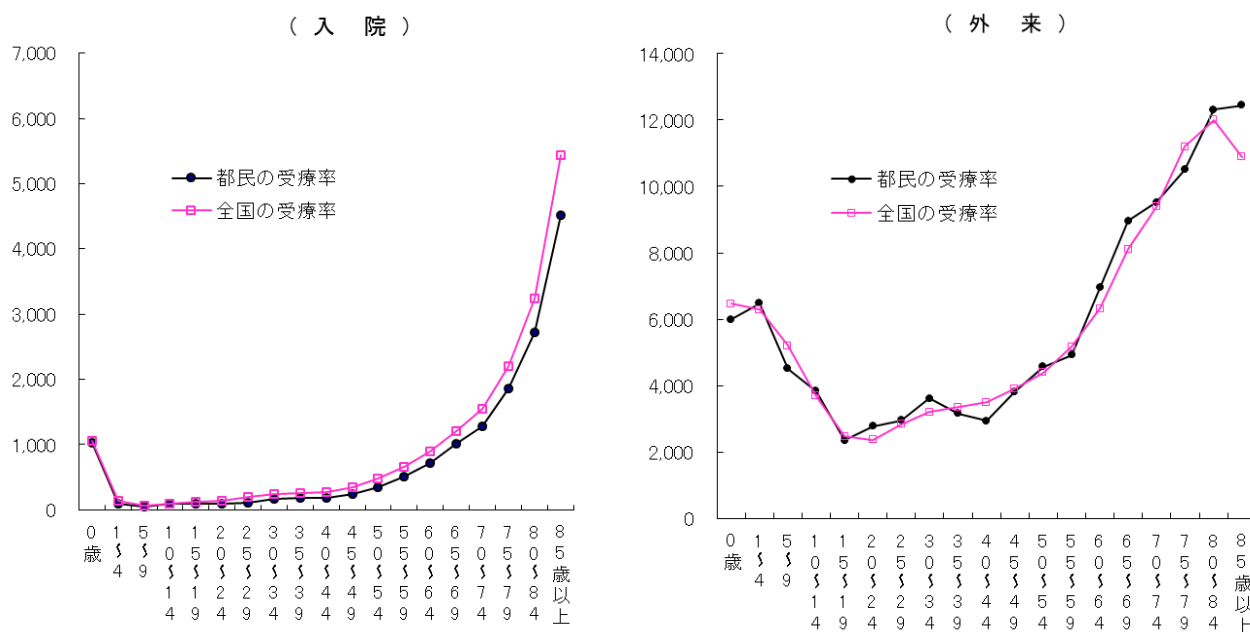
令和5年10月

年齢階級				入 院			外 来		
				総数	男	女	総数	男	女
総	数			671 (669)	631 (630)	709 (706)	5,564 (5,776)	4,662 (4,849)	6,432 (6,670)
0	歳			1,361	1,442	1,276	5,997	5,474	6,544
1	～	4	歳	139	161	118	6,482	6,576	6,441
5	～	9	歳	76	81	70	4,510	4,710	4,300
10	～	14	歳	84	93	73	3,834	3,493	4,193
15	～	19	歳	108	100	115	2,342	2,224	2,466
20	～	24	歳	99	82	117	2,779	2,182	3,370
25	～	29	歳	114	82	146	2,951	1,850	4,051
30	～	34	歳	180	106	257	3,605	2,752	4,479
35	～	39	歳	181	131	232	3,155	2,178	4,164
40	～	44	歳	175	169	182	2,941	2,287	3,624
45	～	49	歳	216	223	209	3,821	3,002	4,668
50	～	54	歳	324	335	312	4,569	3,582	5,581
55	～	59	歳	458	518	394	4,925	4,377	5,509
60	～	64	歳	667	775	554	6,953	5,944	8,007
65	～	69	歳	909	1,044	774	8,966	9,189	8,746
70	～	74	歳	1,221	1,416	1,043	9,520	9,197	9,814
75	～	79	歳	1,745	2,094	1,463	10,514	9,197	11,575
80	～	84	歳	2,436	2,637	2,298	12,318	10,712	13,408
85	歳	以	上	4,395	4,527	4,332	12,443	11,704	12,791
(再	掲)						
65	歳	以	上	2,067	2,101	2,041	10,639	9,784	11,292
70	歳	以	上	2,361	2,421	2,318	11,063	9,964	11,849
75	歳	以	上	2,827	2,919	2,766	11,693	10,344	12,564

注1 歯科診療所は外来のみである。

2 ()は令和2年の数値である。

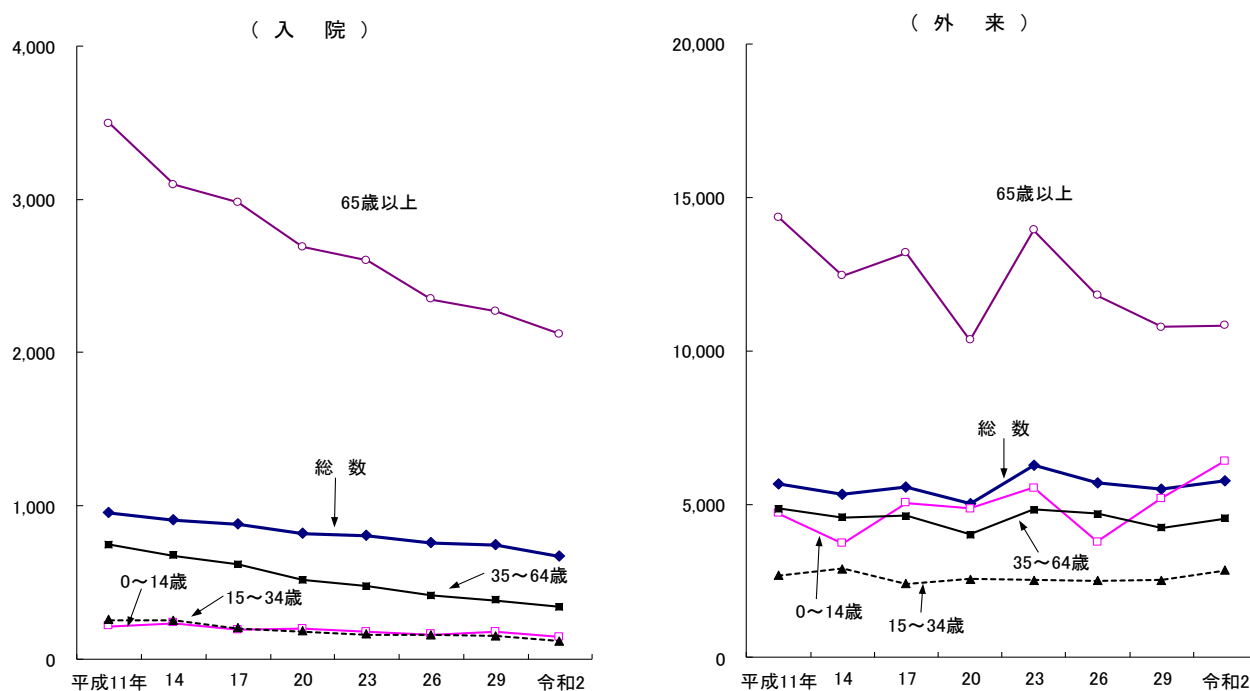
図10 年齢階級別にみた都民と全国の治療率（人口10万対）の比較



(2) 治療率の年次推移（図11）

年次推移（総数）をみると、入院では減少傾向が、外来では横ばい傾向が見られる。年齢階級別にみると、入院、外来ともに「65歳以上」が最も高くなっており、入院では「0～14歳」を除き、低下傾向となっている。外来では、「65歳以上」を除き、多少の変動は見られるもののほぼ横ばい傾向となっている。

図11 年齢階級別にみた都民の治療率（人口10万対）の年次推移

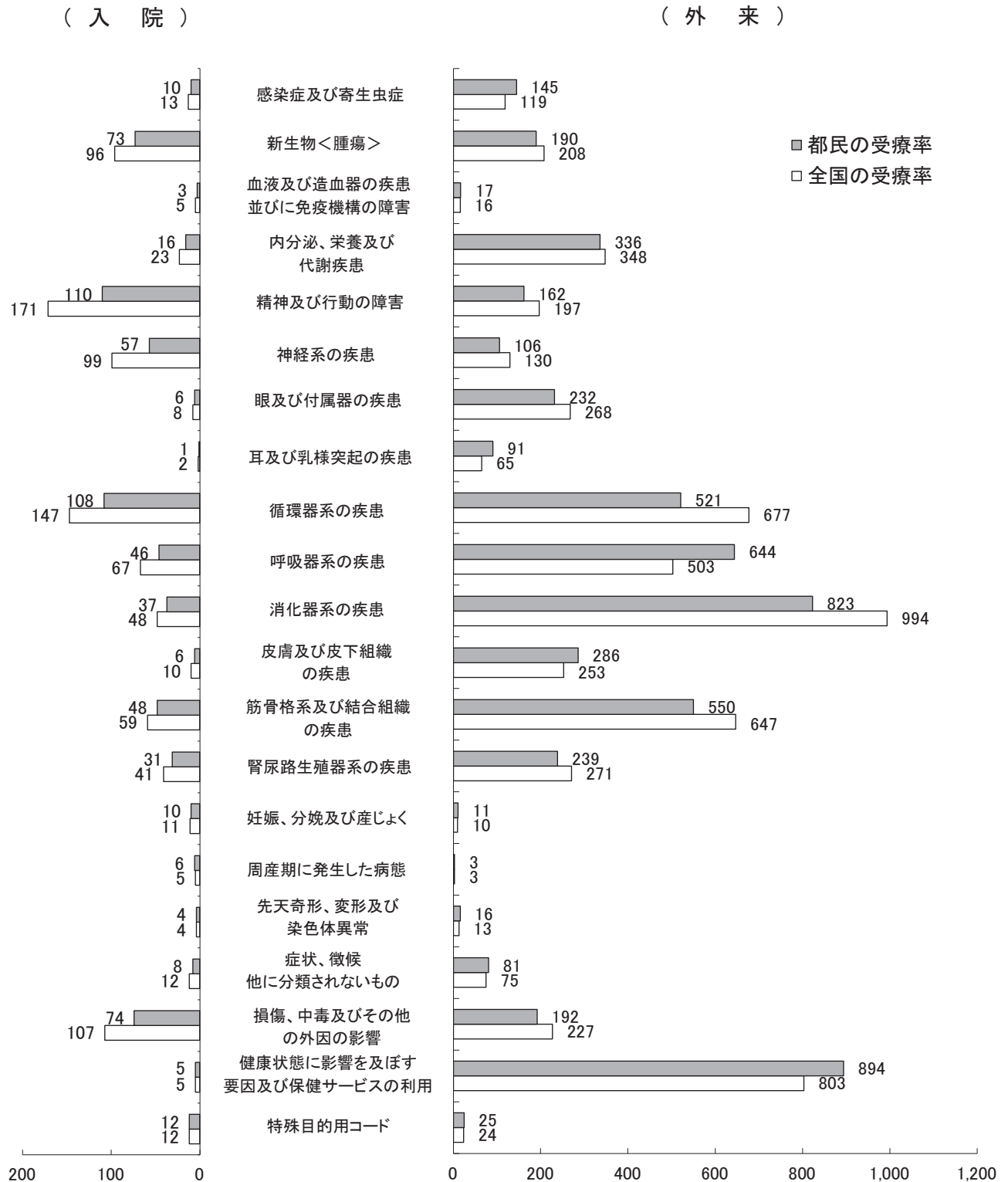


(3) 傷病分類別受療率（図12）

入院について全国と比較すると、全ての傷病で全国と同程度又は下回っている。

外来について全国と比較すると、「感染症及び寄生虫症」「呼吸器系の疾患」「健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用」などで全国を上回っており、「循環器系の疾患」「消化器系の疾患」「筋骨格系及び結合組織の疾患」などで全国を下回っている。

図 1 2 傷病分類別にみた都民と全国の受療率（人口 10 万対）の比較

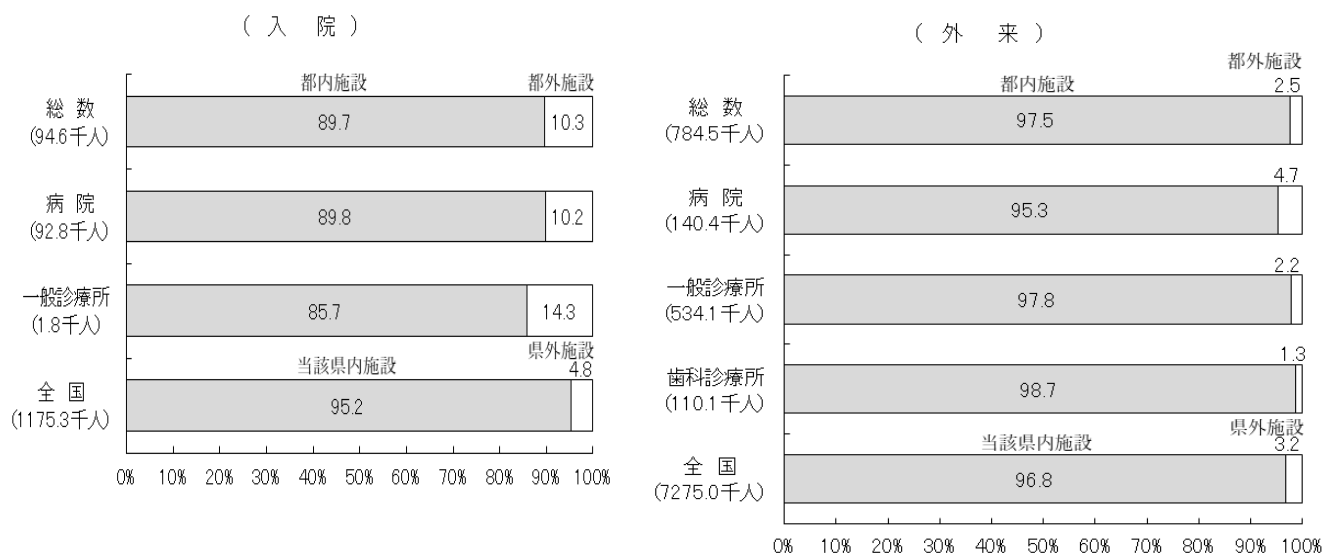


5 流入－流出患者の受療割合（図13、14）

都民の他県施設受療割合（いわゆる「流出患者」割合）は、「入院」10.3%、「外来」2.5%である。全国と比較すると、入院では全国を上回っているが、外来では全国と同程度である。

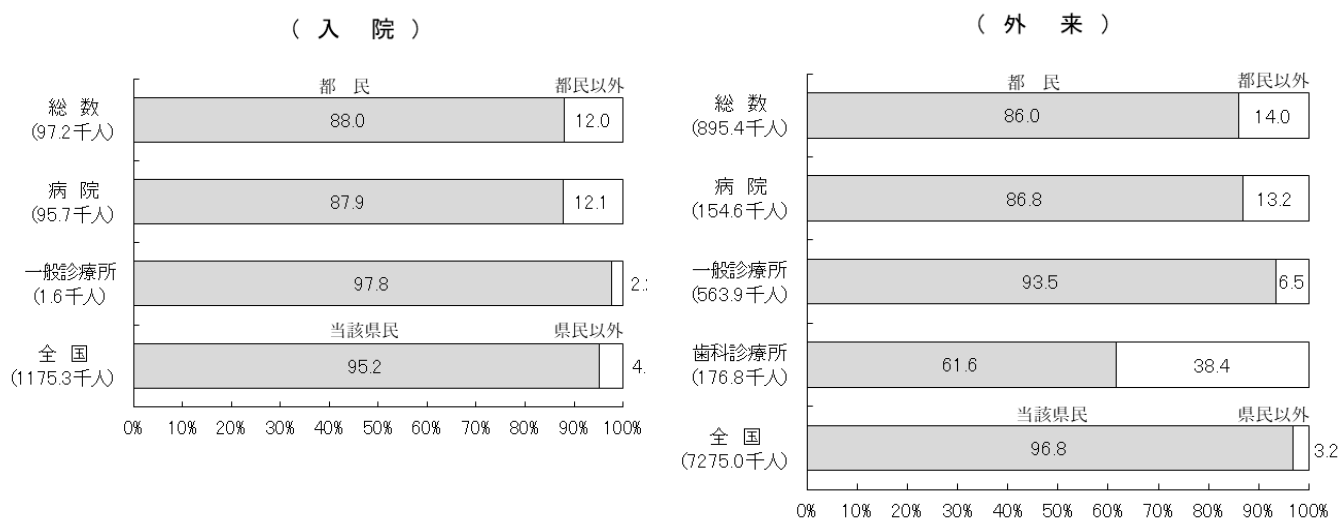
都民以外の都内施設受療割合（いわゆる「流入患者」割合）は、「入院」12.0%、「外来」14.0%である。全国と比較すると、入院、外来とも、全国を上回っている。

図 1 3 都民の都内－都外受療割合



注：（ ）内は推計患者数である。

図 1 4 都内施設における都民－都民以外の受療割合



注1 （ ）内は推計患者数である。

2 総数には、住所地不詳を含む。ただし、都民以外には、住所地不詳、海外の患者を含まない。

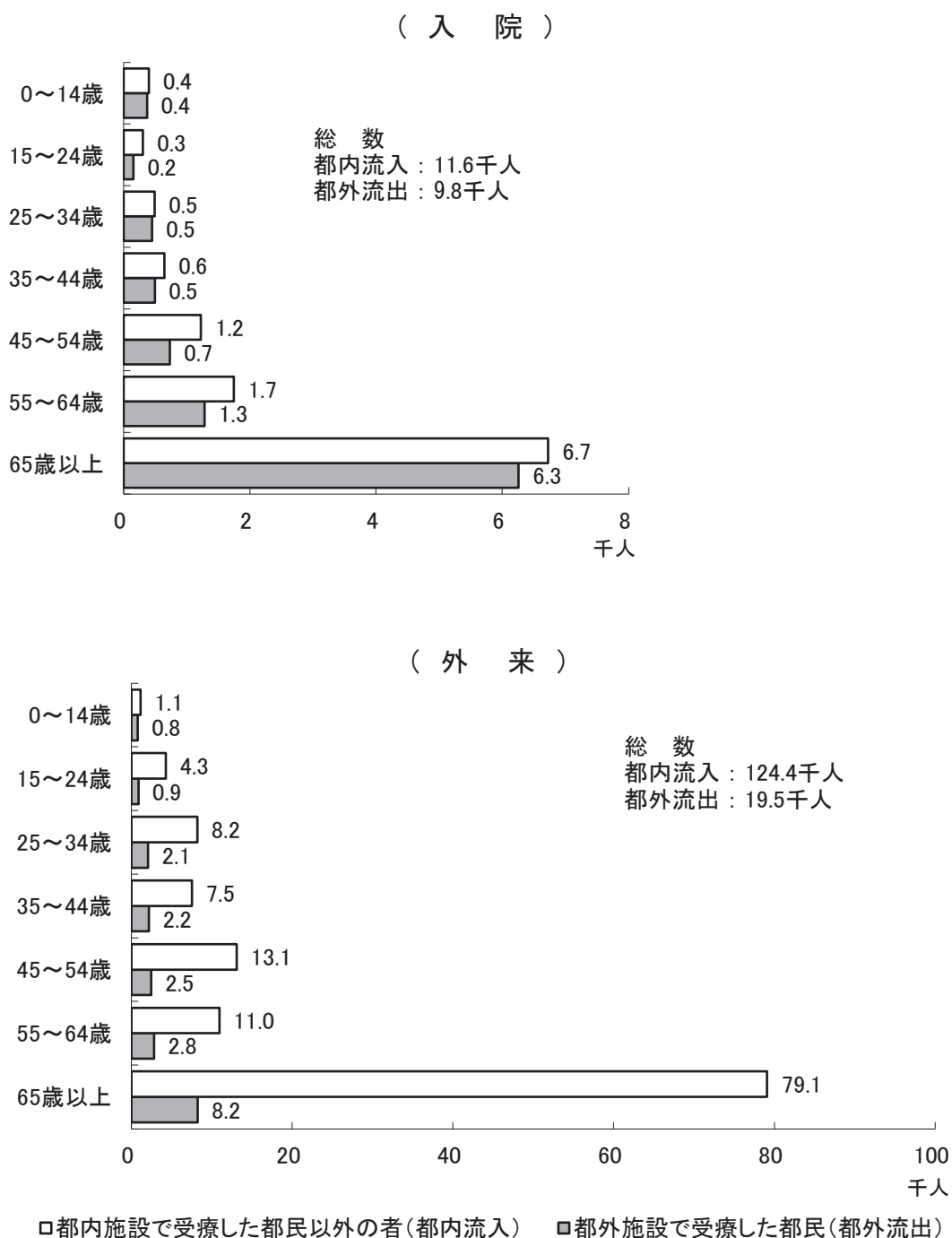
6 流入－流出の推計患者数

調査日に他県施設で受療した都民の推計患者数は、「入院」9.8千人、「外来」19.5千人、都内施設で受療した都民以外の推計患者数は、「入院」11.6千人、「外来」124.4千人である。

(1) 年齢階級別流入－流出の推計患者数（図15）

入院、外来ともにすべての年齢において、都内流入が都外流出を上回っているか、ほぼ同等である。

図15 年齢階級別にみた都内流入－都外流出の推計患者数

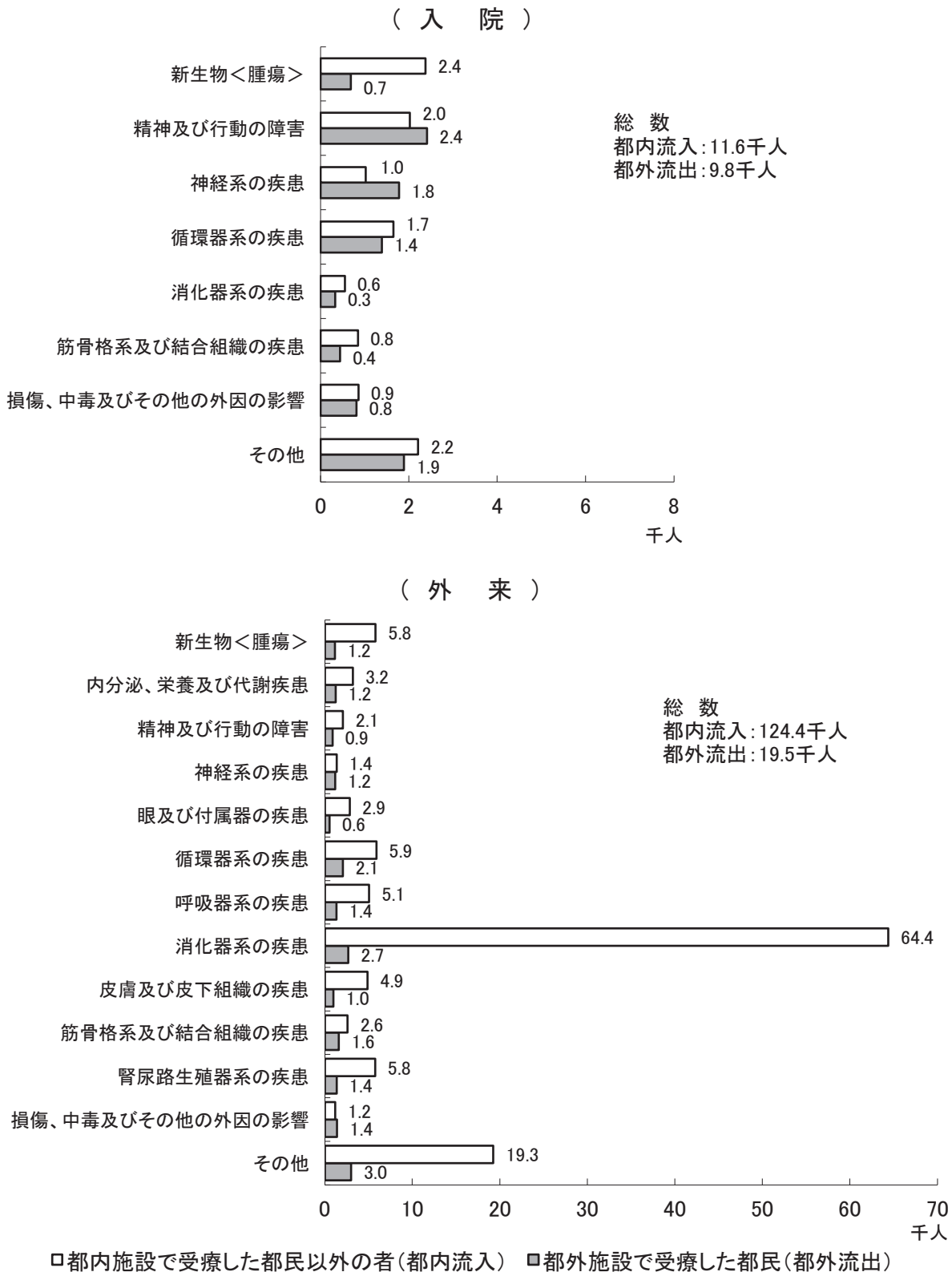


(2) 傷病分類別流入－流出の推計患者数（図16）

傷病分類別にみると、入院では「精神及び行動の障害」「神経系の疾患」で流出が流入を上回っており、その他の傷病では流入が流出を上回っている。

外来では、「損傷、中毒及びその他の外因の影響」を除き、流入が流出を上回っている。

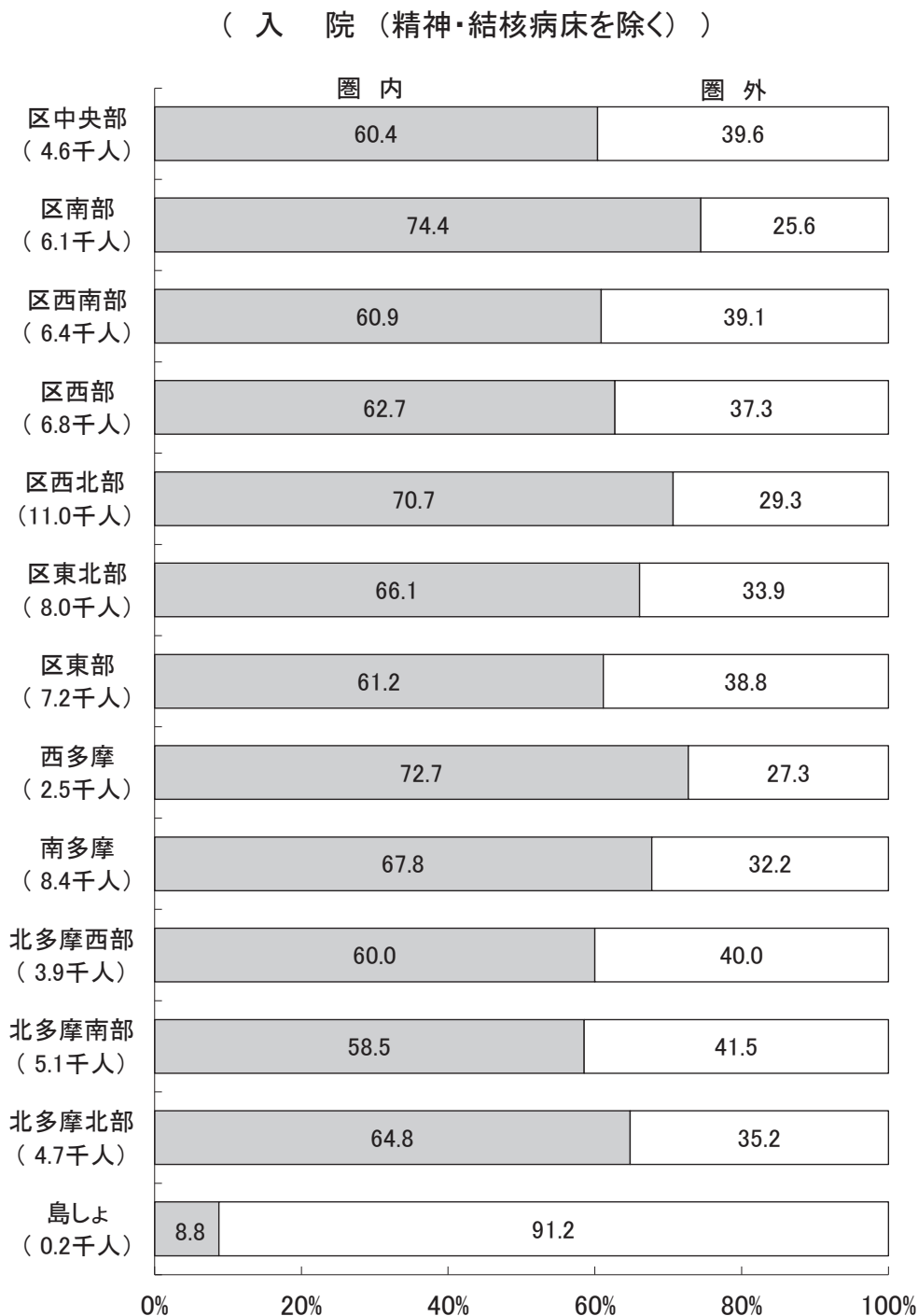
図 1 6 傷病分類別にみた都内流入－都外流出の推計患者数



7 二次医療圏内の病院の受療割合（図17）

二次医療圏ごとの推計患者数のうち、患者が自己の居住地圏内の病院に入院した割合は、「区南部」74.4%、「西多摩」72.7%、「区西北部」70.7%の順となっている。
一方、島しょでは、8.8%となっている。

図17 二次医療圏別にみた患者の居住地圏内の病院の受療割合



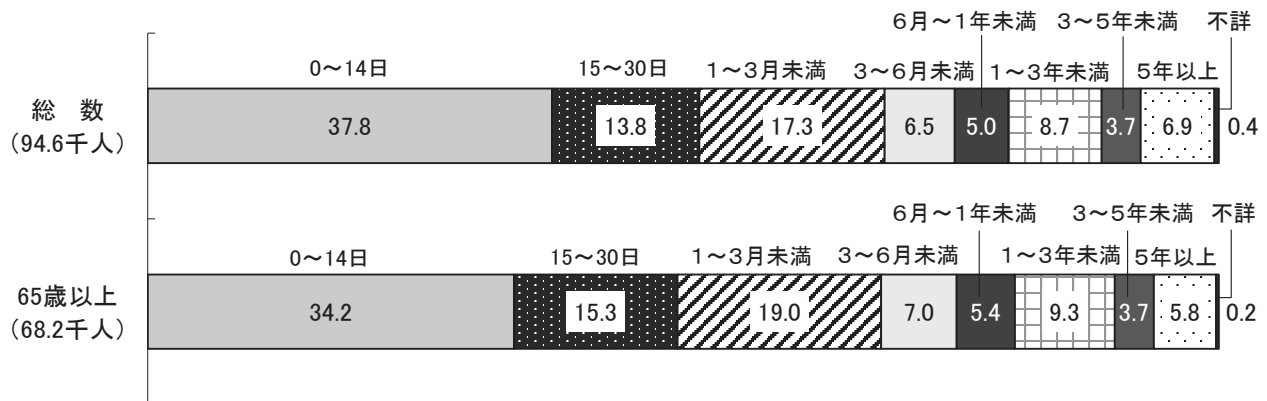
注：（ ）内は、二次医療圏別推計入院患者数（精神・結核を除くその他の病床）である。

8 都民患者の入院期間（図18、図19）

調査日における都民患者の入院期間を構成割合でみると、「0～14日」37.8%、「1～3か月未満」17.3%、「15～30日」13.8%の順となっており、65歳以上でも、「0～14日」34.2%、「1～3か月未満」19.0%、「15～30日」15.3%の順となっている。

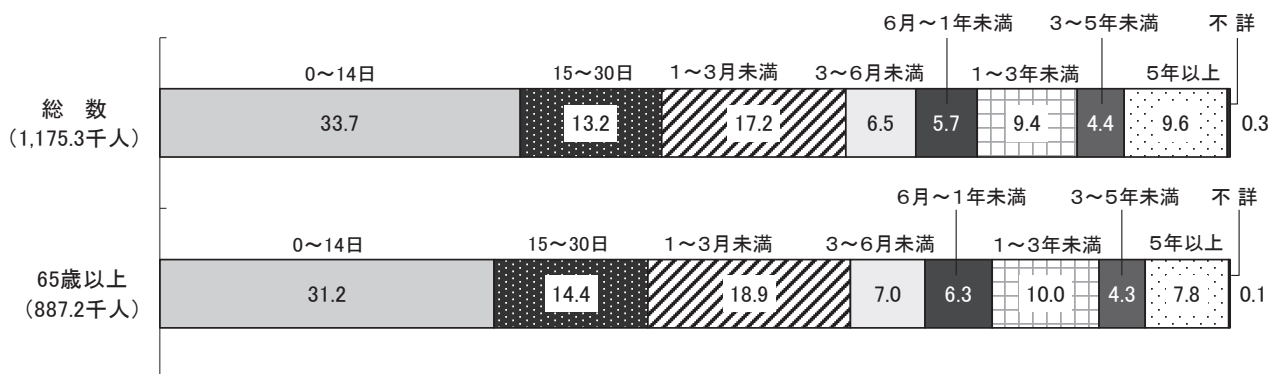
全国と比較すると、総数、65歳以上ともに都民患者の方が「0～14日」の割合が高くなっている。

図 1 8 都民患者の入院期間の構成割合



注: ()内は推計患者数である。

図 1 9 全国患者の入院期間の構成割合



注: ()内は推計患者数である。

9 退院患者の平均在院日数・在院期間

調査期間 1 か月間に医療施設を退院した都民の推計患者数は、129.8千人である。（図20）

(1) 都民の退院患者の平均在院日数（表 7）

都民の退院患者の平均在院日数は、22.2 日である。性別にみると、「男」20.9 日、「女」23.5 日、主要な傷病別にみると、「統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害」322.5 日、「脳血管疾患」59.5 日、「VI 神経系の疾患」56.4 日の順となっている。

表7 傷病分類別にみた都民の退院患者の平均在院日数

(単位:日)

令和5年9月

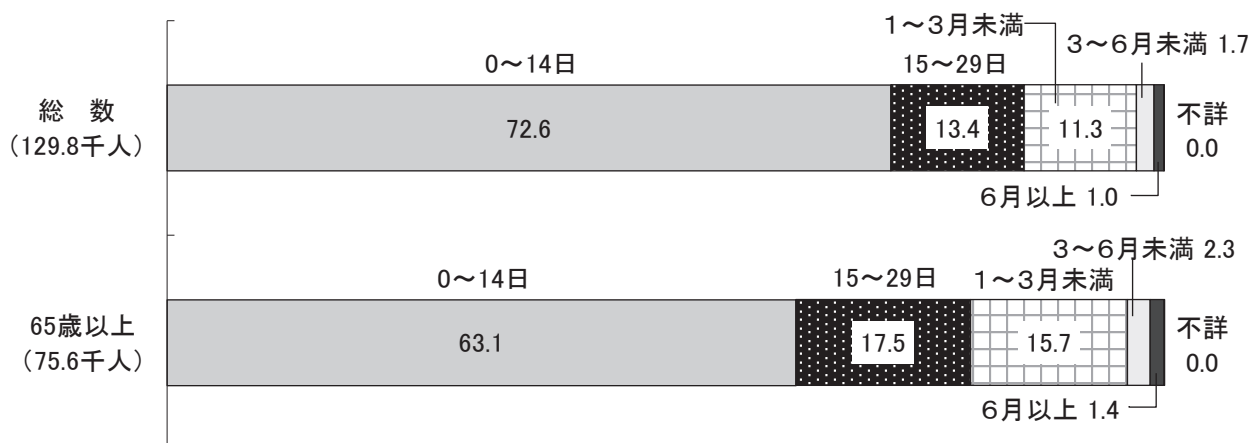
傷病分類		総数	(再掲)		
			男	女	65歳以上
総	数	22.2	20.9	23.5	28.3
I	感染症及び寄生虫症	21.4	23.2	19.8	32.8
	結核	49.1	42.5	64.3	51.5
	皮膚及び粘膜の病変を伴うウイルス性疾患	10.9	10.9	11.0	14.0
II	新生物<腫瘍>	11.7	12.2	11.1	13.1
	悪性新生物<腫瘍>	12.6	12.6	12.5	13.4
	胃の悪性新生物<腫瘍>	13.8	12.7	16.3	14.9
	結腸及び直腸の悪性新生物<腫瘍>	12.4	12.2	12.7	13.7
	気管、気管支及び肺の悪性新生物<腫瘍>	11.3	10.9	12.1	11.9
III	血液及び造血器の疾患並びに免疫機構の障害	18.2	17.8	18.5	20.7
IV	内分泌、栄養及び代謝疾患	20.5	18.6	22.3	25.5
	糖尿病	21.3	19.4	24.0	26.9
V	精神及び行動の障害	178.0	183.0	174.1	295.3
	統合失調症、統合失調症型障害及び妄想性障害	322.5	281.3	355.9	597.9
VI	神経系の疾患	56.4	41.5	74.7	97.5
VII	眼及び付属器の疾患	2.4	2.1	2.7	2.3
VIII	耳及び乳様突起の疾患	4.8	4.5	4.9	5.1
IX	循環器系の疾患	32.0	29.9	34.9	36.5
	高血圧性疾患	34.7	40.9	29.6	36.2
	心疾患(高血圧性のものを除く)	18.1	18.5	17.4	21.8
	脳血管疾患	59.5	54.9	64.5	69.4
	脳梗塞	52.6	50.2	55.2	57.7
X	呼吸器系の疾患	21.1	19.9	22.6	28.1
	喘息	8.2	8.7	7.7	13.2
X I	消化器系の疾患	9.3	8.1	10.9	11.8
	う蝕	1.0	0.9	1.1	1.6
	歯肉炎及び歯周疾患	1.7	1.3	2.0	2.6
	その他の歯及び歯の支持組織の障害	3.0	3.0	3.0	2.5
	胃潰瘍及び十二指腸潰瘍	16.0	14.9	17.7	17.7
	胃炎及び十二指腸炎	20.3	8.7	24.1	25.1
	肝疾患	13.8	14.2	13.1	15.7
X II	皮膚及び皮下組織の疾患	37.1	22.5	53.0	53.8
X III	筋骨格系及び結合組織の疾患	24.7	21.5	27.6	31.5
X IV	腎尿路生殖器系の疾患	15.3	16.0	14.7	21.4
X V	妊娠、分娩及び産じょく	8.9	-	8.9	-
X VI	周産期に発生した病態	10.9	10.6	11.3	-
X VII	先天奇形、変形及び染色体異常	14.5	12.5	17.0	57.3
X VIII	症状、徴候及び異常臨床所見・異常検査所見で他に分類されないもの	23.7	26.4	21.7	35.3
X IX	損傷、中毒及びその他の外因の影響	25.0	21.5	27.6	34.1
X X I	健康状態に影響を及ぼす要因及び保健サービスの利用	6.7	7.5	6.1	21.1
	歯の補てつ	-	-	-	-
X X II	特殊目的用コード	15.6	15.2	16.1	17.2

注 令和5年9月1日～30日に退院した者を対象とした。

(2) 都民の退院患者の在院期間（図20、図21）

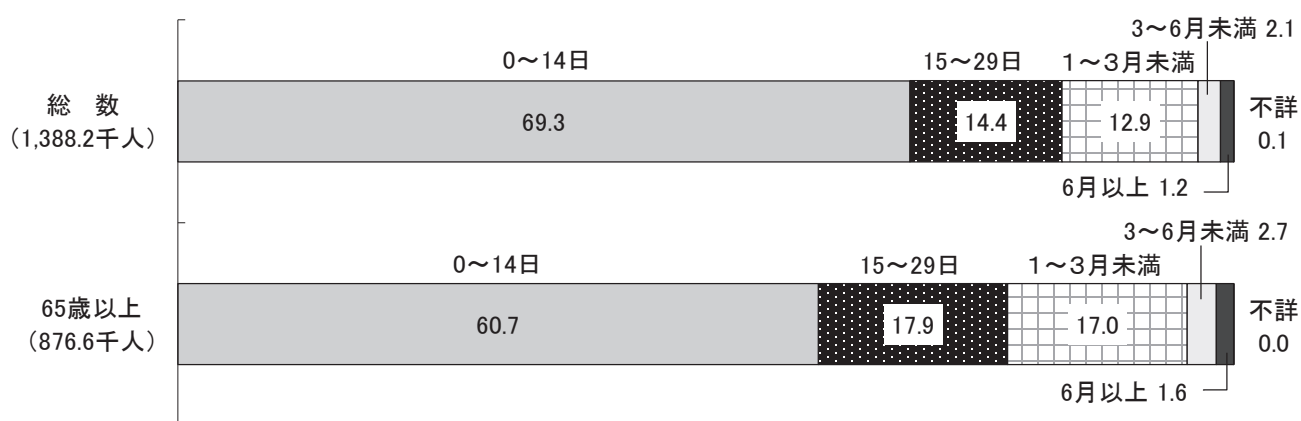
都民の退院患者の在院期間を構成割合でみると、「0～14日」72.6%、「15～29日」13.4%、「1～3か月未満」11.3%の順となっており、65歳以上でも、「0～14日」63.1%、「15～29日」17.5%、「1～3か月未満」15.7%の順となっている。全国と比較すると、総数、65歳以上ともに都民の退院患者の方が「0～14日」の割合が高く、15日以上の割合が低くなっている。

図20 都民の退院患者の在院期間の構成割合



注：（ ）内は推計患者数である。

図21 全国の退院患者の在院期間の構成割合



注：（ ）内は推計患者数である。